奈良教育大学（高畑）技術棟・美技棟改修工事

図面リスト

図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
L-01	表紙・図面リスト	A-01	案内図・配置図	A-23	【美技棟】仕上表（既設・改修後）	KA-01	【技術棟】仮設計画図-1（STEP1・2） 参考図
特-01	特記仕様書-1	A-02	【技術棟】仕上表-1（既設・改修後）	A-24	【美技棟】１階平面図（既設・改修後）	KA-02	【技術棟】仮設計画図-2（STEP3・4） 参考図
特-02	特記仕様書-2	A-03	【技術棟】仕上表-2（既設・改修後）	A-25	【美技棟】屋根伏図（既設・改修後）	KA-03	【美技棟】仮設計画図（参考）
特-03	特記仕様書-3	A-04	【技術棟】１階平面図（既設・改修後）	A-26	【美技棟】立面図（既設・改修後）		
特-04	特記仕様書-4	A-05	【技術棟】２階平面図（既設・改修後）	A-27	【美技棟】矩計図（既設・改修後）		
特-05	特記仕様書-5	A-06	【技術棟】天井伏図（既設・改修後）	A-28	【美技棟】天井伏図（既設・改修後）		
特-06	特記仕様書-6	A-07	【技術棟】建具表-1（撤去・新設）	A-29	【美技棟】展開図-1（既設・改修後）		
特-07	特記仕様書-7	A-08	【技術棟】建具表-2（撤去・新設）	A-30	【美技棟】展開図-2（既設・改修後）		
特-08	特記仕様書-8	A-09	【技術棟】建具表-3（撤去・新設）	A-31	【美技棟】展開図-3（既設・改修後）		
特-09	特記仕様書-9	A-10	【技術棟】建具表-4（一部撤去・新設/残置）	A-32	【美技棟】建具表-1（既設・改修後）		
特-10	特記仕様書(工事区分表)	A-11	【技術棟】建具表-5（残置）	A-33	【美技棟】建具表-2（既設・改修後）		
		A-12	【技術棟】展開図-1（既設・改修後）	A-34	【美技棟】建具表-3（既設・改修後）		
		A-13	【技術棟】展開図-2（既設・改修後）	A-35	【美技棟】建具表-4（一部撤去・新設/残置）		
		A-14	【技術棟】展開図-3（既設・改修後）	A-36	【美技棟】外部建具詳細図（参考図）		
		A-15	【技術棟】展開図-4（既設・改修後）	A-37	【美技棟】外構改修図（既設・改修後）		
		A-16	【技術棟】展開図-5（既設・改修後）				
		A-17	【技術棟】展開図-6（既設・改修後）				
		A-18	【技術棟】展開図-7（既設・改修後）				
		A-19	【技術棟】展開図-8（既設・改修後）				
		A-20	【技術棟】展開図-9（既設・改修後）				
		A-21	【技術棟】外部建具詳細図（参考図）				
		A-22	【技術棟】外構改修図				

（参考図）

	業務名 奈良教育大学（高畑）技術棟等 改修工事設計業務（建築）	Hiroyuki Takahara & Associates Design Office Inc. 株式会社HTAデザイン事務所 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第20902号	管理技術者	主任技術者	担当者	工事名 奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事	令和 7年 7月	奈良国立大学機構 機構施設課			図面番号
						図面名称 表紙・図面リスト	縮尺 A1 － A3 －	課長	課長補佐	係長	担当者	L-01

奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事

Ⅰ 工事概要

1.工事場所　奈良県奈良市高畑町（奈良教育大学高畑団地構内）

2.完成期限　令和8年3月16日（月曜日）

3.建物概要

建物名称		技術棟	美技棟		
工種		改修	改修		
構造		RC造	RC造		
階数		2階	1階		
建築基準法による	建築面積(㎡)	(392)	(285)		
	延べ面積(㎡)	(699)	(280)		
消防法施行令別表第一の区分		(七)	(七)		
改修面積（㎡）		699	280		
備考					

4.工事種目

⊙ 印のついたものが対象工事種目

工事種目 ＼ 建物別及び屋外	工事種別 技術棟	美技棟		
⊙ 2 仮設工事	一式	一式		
⊙ 3 防水改修工事	―	一式		
⊙ 4 外壁改修工事	―	一式		
⊙ 5 建具改修工事	一式	一式		
⊙ 6 内装改修工事	一式	一式		
⊙ 7 塗装改修工事	一式	一式		
・ 8 耐震改修工事	―	―		
⊙ 9 環境配慮改修工事	一式	一式		
・ プール改修工事	―	―		
・ 電気設備工事				
・ 機械設備工事				
・				

5.指定部分　⊙無　・有　対象部分（　　）
指定部分工期　令和　年　月　日（　曜日）

6.概成工期　⊙無　・有　令和　年　月　日（　曜日）　(1.2.1)[1.2.1]

Ⅱ 工事仕様

1.共通仕様

（1）文部科学省発注工事請負等契約規則（文部科学省訓令第二十二号）別記第1号の工事請負契約基準、現場説明書、図面 ** 枚及び本特記仕様書 ** 枚によるほか、下記仕様書等のうち、○印のついたものを適用する。
⊙ 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(令和7年版)(以下「標準仕様書」という。)
⊙ 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(令和7年版)(以下「改修標準仕様書」という。)
・ 文部科学省建築工事標準仕様書(特記基準)(令和4年版)(以下「文科仕様書」という。)
⊙ 文部科学省建築改修工事標準仕様書(特記基準)(令和4年版)(以下「文科改修仕様書」という。)
⊙ 工事写真撮影要領(令和5年9月)
・ 建築物解体工事共通仕様書(令和4年版)
⊙ 建築工事標準詳細図(令和4年版)
・ 公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和7年版)(以下「標準仕様書」という。)
・ 公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和7年版)(以下「改修標準仕様書」という。)
・ 公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)(令和7年版)(以下「標準図」という。)
・ 文部科学省電気設備工事標準仕様書(特記基準)(令和4年版)(以下「文科仕様書」という。)
・ 文部科学省電気設備工事標準図(特記基準)(令和4年版)(以下「文科標準図」という。)
・ 公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)(令和7年版)(以下「標準仕様書」という。)
・ 公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編)(令和7年版)(以下「改修標準仕様書」という。)
・ 公共建築設備工事標準図(機械設備工事編)(令和7年版)(以下「標準図」という。)
・ 文部科学省機械設備工事標準仕様書(特記基準)(令和4年版)(以下「文科仕様書」という。)
・ 文部科学省電気設備工事標準図(特記基準)(令和4年版)(以下「文科標準図」という。)

（2）電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、それぞれの特記仕様書を適用する。
なお、電気設備工事の特記仕様書は（　　）、
機械設備工事の特記仕様書は（　　）による。

2.特記仕様

（1）本特記仕様書の表記
1）項目は、⊙印のついたものを適用する。
2）特記事項は、⊙印のついたものを適用する。
⊙印の付かない場合は、※ 印のついたものを適用する。
⊙印と※印のついた場合は、共に適用する。
3）特記事項に記載の（　）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
特記事項に記載の［　］内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
特記事項に記載の《　》内表示番号は、文科仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
特記事項に記載の［［　］］内表示番号は、文科改修仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
4）G印は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（平成12年法律第100号）に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和4年2月25日変更閣議決定）」に定める特定調達物品における判断の基準（特定調達品目「公共工事」においては表1中の品目ごとの判断の基準）を満たすものを示す。

（参考図）

章	項目	特記事項

1 各章共通事項

⊙ 適用区分

⊙ 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。
⊙ 風圧力
風速（Vo= 32 m/s）
地表面粗度区分（・Ⅰ ・Ⅱ ◉Ⅲ ・Ⅳ）
⊙ 積雪荷重
平成12年5月31日建設省告示第1455号における区域　別表（　　）

⊙ 電気保安技術者、工事用電力設備の保安責任者　(1.3.3～4)[1.3.3～4]

この工事現場に下記いずれかの資格を有する電気保安技術者を選任する。

	項目名	電気保安技術者
1	第３種電気主任技術者以上の資格を有する者	⊙
2	１級電気工事施工管理技士の資格を有する者	⊙
3	高等学校又はこれらと同等以上の教育施設において、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令第７条第１項各号の科目を修めて卒業した者	⊙
4	旧電気工事技術者検定規定規則による高圧電気工事技術者の検定に合格した者	⊙
5	公益事業局長又は通商産業局長の指定を受けた高圧試験に合格した者	⊙
6	第１種電気工事士の資格を有する者	⊙
7	２級電気工事施工管理技士の資格を有する者	⊙
8	第２種電気工事士以上の資格を有する者	⊙
9	短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上の教育施設の電気工学以外の工学に関する学科において一般電気工学（実験を含む）に関する科目を修めて卒業した者	・

工事用電力を構外から引き込む場合は、法令に基づく有資格者を定め、監督職員に報告する。

・ 施工条件　(1.3.5)[1.3.5]

この工事現場では、次の施工条件による。
⊙改修工事を実施する建物の近隣は、工事中も継続利用しているため、振動・騒音・防塵・異臭対策を行うとともに、学生や職員等の安全性に最大限配慮すること。
⊙夜間や早朝に工事を行わないこと。
⊙撤去等、騒音・振動を伴う作業については、大学行事等を考慮し、協議のうえ施工日を決定する。
（特に大きな騒音、振動を伴う撤去作業日は事前に監督職員の了承を得ること。）
⊙作業不可期日及び工事規制日については、現場説明書及び監督職員の指示による。
⊙構内駐車場は駐車禁止とする。
⊙構内は全面禁煙としている。工事用地内であっても禁煙とする。
⊙大学の業務時間は、8:30-17:15であるので、検査、打ち合わせ等は業務時間内に行うこと。
⊙官公庁等との打合せ届出書類の作成及び届出は、必要に応じて行うこと。
⊙施工図、施工プロット図を作成し、監督職員の承諾を得ること。
・本学は、電気主任技術者を外部の保全業務受注者に委託しているため、停電及び耐圧試験等の立会費用については、受注者の負担にて行うこと。

⊙ 発生材の処理等　(1.3.11)[1.3.12]

（1）引渡しを要するもの
1）品名
引渡し先
集積場所
（2）特別管理産業廃棄物
1）品名
処理方法
（3）現場において再利用を図るもの
1）品名
使用箇所
（4）再資源化を図るもの
1）品名　⊙建設発生土
受入場所　㈱ＩＴＯ 奈良県奈良市南庄町136番地
2）品名
（5）その他発生材については、標準仕様書に従い、適切に処理する。

⊙ 環境への配慮　(1.4.1)[1.4.1]

建築物内部に使用する材料等とは、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。
① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。
② 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。
③ 接着剤は、可塑性（フタル酸ジｎ－ブチル及びフタル酸ジｎ－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。
④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

⊙ 材料の品質等　(1.4.2)[1.4.2]

（1）本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。
（2）製品名が記載された材料は、当該製品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。
（3）標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。
（4）本工事に使用する材料のうち、（5）に指定する材料の製造所等は、以下に指定する事項を満たすものとし、その証明となる資料を監督職員に提出して承諾を受ける。
ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りでない。
⊙ 品質及び性能に関する試験データを整備していること。
⊙ 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。
⊙ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。
⊙ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。
⊙ 安定的な供給が可能であること。
⊙ 販売、保守等の営業体制を整えていること。
（5）製造所等に関する資料の提出を求める材料

⊙ 材料の検査等　(1.4.4)[1.4.4]

材料名	備考

・ 石綿含有建材の調査　事前調査　[1.5.1]

工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う。
貸与資料（　　）
・分析による石綿含有建材の調査
分析対象
アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トレモライト
分析方法

材料名	定性分析方法（JIS A 1481-1）または（JIS A 1481-2）	定量分析方法（JIS A 1481-3）または（JIS A 1481-4）
	・（箇所）	・（箇所）
	・（箇所）	・（箇所）
	・（箇所）	・（箇所）

サンプル数　1箇所あたり3サンプル
採取箇所
・図示による　・

⊙ 技能士　(1.5.2)[1.7.2]

適用工事種別	技能検定の種別
仮設工事	
鉄筋工事	・ 鉄筋施工
コンクリート工事	・ 左官　・ 型枠施工
鉄骨工事	・ とび
ブロック・ＡＬＣパネル工事 ＰＣカーテンウォール工事	
防水工事	⊙ 防水施工
石工事	
タイル工事	
木工事	
屋根、とい工事	・ 建築板金
金属工事	・ 内装仕上げ施工(鋼製下地)
左官工事	⊙ 左官
建具工事	⊙ サッシ施工　⊙ ガラス施工
塗装工事	⊙ 塗装
内装工事	⊙ 内装仕上げ施工(床、天井仕上げ等)
植栽工事	

・ 施工の検査等　(1.5.5)[1.7.5]

標準仕様書等に定めがあるもの以外で、次に示す施工については、監督職員の検査を受ける。

検査等を行う施工	備考

⊙ 施工の立会い　(1.5.7)[1.7.7]

標準仕様書等に定めがあるもの以外で、次に示す工事段階及び事項については、監督職員の立会いを受ける。

施工の立会いを行う工程	備考
外壁関係の施工	外部足場を取り外す前の段階
外壁のひび割れ・浮き・欠損等	調査及び施工が完了した段階

⊙ 化学物質の濃度測定　(1.5.9)[1.7.9]

（1）施工完了後、引渡前に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン等の濃度を測定し、測定結果を監督職員に報告する。

測定対象化学物質	指針値（両単位の換算は、25℃の場合による。）
ホルムアルデヒド	100μg/m³（0.08ppm)以下
トルエン	260μg/m³（0.07ppm)以下
キシレン	200μg/m³（0.05ppm)以下
エチルベンゼン	3800μg/m³（0.88ppm)以下
スチレン	220μg/m³（0.05ppm)以下

（2）測定対象室及び測定箇所数は以下表による。

棟名称	階	室名	採取本数
技術棟	1	101　金属加工実験室	1
	1	105　木材加工実験室	1
	2	202　電気実験室	1
	2	207　教員研究室	1
美技棟	1	美術演習室	1

（3）測定方法は、（・吸引方式（アクティブ法）・拡散方式（パッシブ法））により行う。

（4）文部科学省の「学校環境衛生基準」に基づき、採取は室内の温度が高い時期に行い、吸引方式では30分間で２回以上、拡散方式では８時間以上行う。

（5）測定結果が指針値を超えていた場合は、発生源を特定し、換気等の措置を講じた後、再度測定し、基準値以下であることを確認してから引渡しを行う。

⊙ 完成時の提出図書　(1.7.1～3)[1.9.1～3]

次の図書を監督職員に提出する。また、それらを本工事目的物に関し使用するための権利については、発注者に委譲する。
1）完成図
⊙CADデータ（電子納品）及び電子データ（PDF形式）
・A3版原図　　部
⊙A1版原図　1 部
⊙A3複写図（製本）　1 部
⊙A1複写図（製本）　1 部
2）保全に関する資料
⊙電子データ（PDF形式）
⊙A4ファイル綴じ　3 部
3）工事写真（「工事写真撮影要領」による。）
⊙原本（電子媒体）
⊙アルバム（紙又は電子媒体）1 部
4）完成写真
工事完成時に次の写真を撮影し、監督職員に提出する。

撮影部位及び箇所数	形式・サイズ	提出セット数	画素数及び画質等	撮影者
外観正面（2）箇所 ※各棟	⊙電子データ（JPEGフルカラー・圧縮率1/4程度）	1	4500×3000ピクセル以上で画像補正を行ったもの	建築完成写真の撮影実績がある者で、監督職員が承諾する撮影業者
	・カラー印画紙キャビネ判	1		
	⊙カラー印画紙キャビネ判 A4アルバム綴じ（注）	1		
	・カラー木製パネル半切（324×400mm）			
上記と異なる外部：２箇所 内部：８箇所 ※各棟	⊙電子データ（JPEGフルカラー・圧縮率1/4程度）	1		
	・カラー印画紙キャビネ判			
	⊙カラー印画紙キャビネ判 A4アルバム綴じ（注）	1		
外部：　箇所 内部：　箇所 程度	・電子データ（JPEGフルカラー）		1280×960ピクセル以上かつ撮影したデジタルカメラの設定のうち最高の画質	任意
	・カラー印画紙キャビネ判 A4アルバム綴じ			

（注）のアルバムは併せて作成する。

電子納品は次の規定に従うものとする。
1）貸与する設計図のCADデータは以下による。
著作者名：奈良国立大学機構
ファイル形式：JWW・PDF
貸与条件：貸与するCADデータを本工事における施工図又は完成図の作成のため以外に使用しないこと。
2）完成写真の撮影に関する著作者の権利等については次のi）及びii）によることとし、受注者は撮影者等との契約に当たってもそれらの承諾を条件とする。
i）提出された写真は、国が行う事務及び国が認めた用途に関して、無償で利用することができるものとする。この際、著作者名を表示しないこと及びその利用に必要な範囲で改変を行うことができるものとする。
ii）受注者及び撮影者等は、撮影時に取得した全ての写真（提出していないものを含む。）及びその改変物、複製物を公表、閲覧、譲渡その他一切の方法により第三者に使用させてはならない。ただし、あらかじめ発注者の承諾を受けた場合は、この限りではない。
3）電子納品の対象は上記によるほか、監督職員と受注者で協議を行う。
4）電子成果品は、提出前にウイルス対策を実施したうえで監督職員に提出する。
5）提出方法及びファイル形式は以下による。
電子媒体：CD-RまたはDVD-R
CADデータ：JWW、DXF及びPDF
上記の他、監督職員が認めた形式

⊙ 他工事又は他工種との取合い

工事区分表による。これにより難い場合は監督職員と協議する。

⊙ 埋設配管・配線および鉄筋調査

あと施工アンカー工事
６章および８章による

コア抜き、はつり工事等
※ 既存資料調査
⊙探査機（電磁波レーダー法又は電磁波誘導法）による探査
配管・配線等の位置の墨出を行う
範囲　※図示による　・
・ 放射線透過試験
労働安全衛生法、「電離放射線障害防止規制」（昭和47年労働省令第41号）等に定めるところによるほか、次による。
（1）作業主任者は、エックス線作業主任者の資格を有するものとし、資格を証明するものとし、資格を証明する資料を監督職員に提出する。
（2）放射線照射量は最小限のものとし、照射中は人体に影響のない程度まで照射器より離れる。また、作業者以外の立入禁止措置を講ずる。
（3）露出時間は、コンクリートの厚さ等により、適宜調整する。
（4）付近にフィルム、磁気ディスク等放射線の影響を受けるものの有無を確認する。
（5）躯体の墨出しは、表裏でズレがないように措置を講ずる。
撮影枚数　枚
フィルムサイズ
コンクリート厚さ　cm
・ 既存躯体に穿孔する場合に、金属探知により電源供給が停止できる付属装置等を用いる。

業務名	株式会社HTAデザイン事務所 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第20902号	工事名	図面名称	縮尺	課長補佐	図面番号
奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事設計業務（建築）	Hiroyuki Takahara & Associates Design Office Inc.	奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事	特記仕様書－1	令和 7年 7月 A1 － A3 －	奈良国立大学機構 機構施設課	特－01

2 仮設工事

⊙騒音・粉じん等の対策

・防音パネル [2.1.3]

⊙防音シート

防音パネル等を取り付ける足場等の設置範囲

・図示による ・

⊙足場等 [2.2.1][表 2.2.1]

「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。

外部足場

⊙設置する

（設置範囲 ⊙工事に必要な範囲 ⊙図示による ・ ）

・設置しない

防護シート

⊙設置する

（設置範囲 ⊙工事に必要な範囲 ⊙図示による ・ ）

・設置しない

内部足場

⊙設置する

（※脚立、足場板等 ・ ）

・設置しない

⊙材料、撤去材等の運搬方法

種別（・A種 ・B種 ・C種 ⊙D種 ・E種 ）

C種：利用可能なエレベーター （・図示による ・ ）

D種：利用可能な階段 （・図示による ・ ）

⊙既存部分の養生

養生方法等 [2.3.1]

⊖既存部分

養生方法（※ビニルシート、合板 ・ ）

⊖既存家具、既存設備等

養生方法（※ビニルシート等 ・ ）

・既存ブラインド、カーテン等

養生方法（・ビニルシート等 ・ ）

保管場所（・図示による ・ ）

⊙固定された備品、机、ロッカー等の移動

・図示による ⊙監督職員の指示による

既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。また、万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。

⊙仮設間仕切り

仮設間仕切り及び仮設扉の設置箇所 [2.3.2][表 2.3.1]

⊖図示による ・

仮設間仕切りの種別と材質等

種別	仕上げ（厚さmm）	塗装	充填
・A種	⊙せっこうボード 種類(⊙ GB-R) 厚さ(・ mm ※9.5mm) ・合板 材種(・) 厚さ(・ mm ※9mm) ・	⊙無し ・片面 ・	グラスウール 厚さ 50 mm
⊙B種			
・C種	・防護シート ・		

仮設間仕切りに設ける仮設扉の材質等

材質	仕上げ	塗装	設置箇所
※木製 ・	※合板張り程度 ・	⊙無し ・片面	・ か所 ⊙図示による

3 防水改修工事

⊙施工数量調査

調査範囲 [1.6.2、3]

・図示による ⊙全面

調査方法

・図示による ⊙目視

既存部分の破壊を行った場合の補修方法

・図示による ・

調査報告書（提出部数 ⊙2部 ・ ）

⊙降雨等に対する養生方法（とい共） ※改修標準仕様書3.1.3(5)(ｱ)～(ｳ)による [3.1.3]

・

⊙既存防水の処理

既存保護層の撤去 [3.1.4][3.2.3、4、6]

・行う（範囲 ・図示による ・ ）

・行わない

既存防水層の撤去

・行う（範囲 ・図示による ・ ）

⊙行わない

既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去

・行う（・M4AS ・M4ASI ・M4C ・M4DI ・L4X）

⊙行わない

⊙既存下地の処理

既存下地の補修箇所の形状、長さ、数量等 [3.2.6]

・図示による ・

POS工法及びPOSI工法（機械的固定方法）の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処置

※改修標準仕様書3.2.6(4)(ｳ)(g)①～③による

・

設備機器架台、配管受部、パラペット、貫通パイプ回り、手すり・丸環の取付け部、塔屋出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理

※監督職員と協議する

・図示による

・アスファルト防水

・屋根保護防水（既存） [3.3.2～5]

新設防水層の種別

改修工法	新設種別	施工箇所	断熱材G	絶縁用シート
・P2A	・A-1 ・A-2 ・A-3			※ポリスチレンフィルム 厚さ0.15mm以上 又はフラットヤーンクロス 70g/㎡程度 ・
・P1B	・B-1 ・B-2			
・P2A Ⅰ	・A Ⅰ-1 ・A Ⅰ-2 ・A Ⅰ-3		（種類） ※JIS A 9521に基づく押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA（スキン層付き） （厚さ）(mm) ・	※フラットヤーンクロス 70g/㎡程度 ・
・P1B Ⅰ	・B Ⅰ-1 ・B Ⅰ-2			

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ

※改修標準仕様書表3.3.5及び表3.3.6による

・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ

用途による区分 ・

材料による区分 ※R種

厚さ（ ）mm以上

部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ

※改修標準仕様書表3.3.3及び表3.3.4による

・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ

用途による区分 ・

材料による区分 ※R種

厚さ（ ）mm以上

平場の保護コンクリートの厚さ

こて仕上げ ※水下 80mm以上 ・

床タイル張り ※水下 60mm以上 ・

立上り部の保護方法

・乾式保護材

窯業系パネルⅠ類（厚さ (mm) 幅 (mm)）

・れんが押え（※JIS R 1250 ・ ）

・コンクリート押え

・モルタル押え（屋内）

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法

※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度

・

屋上排水溝

※図示による ・

・屋根露出防水（既存）

新設防水層の種別

改修工法	新設種別	施工箇所	断熱材G	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水G	備考
・M4C	・C-1 ・C-2 ・C-3 ・C-4			・アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ・	※アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ・	・適用する	
・M3D ・P0D	・D-1 ・D-2 ・D-3 ・D-4			・アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ・	※アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ・	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
・P0DI ・M3DI ・M4DI	・DI-1 ・DI-2		改修標準仕様書3.3.2(9) （種類） ・ （厚さ）(mm) ・	・アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ・	※アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ・	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ

※改修標準仕様書表3.3.9による

・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ

用途による区分 ・

材料による区分 ※R種

厚さ（ ）mm以上

部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ

※改修標準仕様書表3.3.8及び表3.3.9による

・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ

用途による区分 ・

材料による区分 ※R種

厚さ（ ）mm以上

絶縁断熱工法のルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置

※図示による ・

絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量

種類 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定

・

設置数量 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定

・ （個）

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法

※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度

・

屋上排水溝

※図示による ・

・屋内防水

防水層の種別

工法	種別	施工箇所
・P1E ・P2E	・E-1 ・E-2	

保護層 ・設ける（※図示による ・ ）

・設けない

E-1の工程3を行う部位

※貯水槽、浴室等常時水に接する部位

・

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法

※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度

・

排水溝

※図示による ・

・改質アスファルトシート防水

屋根露出防水（既存） [3.4.2、3]

新設防水層の種別

改修工法	新設種別	施工箇所	断熱材G	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水G	備考
・M4AS	・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-J2			・改質アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ・	※改質アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ・	・適用する	
・M3AS	・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J1			・改質アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ・	※改質アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ・	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
・P0AS	・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J1 ・AS-J3			・改質アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ・	※改質アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ・	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
・M3ASI ・M4ASI ・P0ASI	・ASI-T1 ・ASI-J1		改修標準仕様書3.4.2(3)(ｳ) （種類） ・ （厚さ）(mm) ・	・改質アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ・	※改質アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ・	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない 防温層 ・設ける ・設けない

改質アスファルトシートの種類及び厚さ

※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による

・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ

用途による区分 ・

材料による区分 ※R種

厚さ（ ）mm以上

粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ

※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による

・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ

用途による区分 ・

材料による区分 ※R種

厚さ（ ）mm以上

部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ

※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による

・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ

用途による区分 ・

材料による区分 ※R種

厚さ（ ）mm以上

立上り部の押え金物の材質、形状及びず寸法

※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度

・

屋上排水溝

※図示による ・

絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量

種類 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定

・

設置数量 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定

・ （個）

絶縁断熱工法の防温用シート

・設置する

・設置しない

⊙合成高分子系ルーフィングシート防水

・屋根保護防水 [3.5.2～4][表3.5.1～3]

新設防水層の種別

改修工法	新設種別	施工箇所	断熱材G	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水G	備考
・POS ⊙S4S	・S-F1 ・S-F2 ・S-M1 ⊙S-M2			・ルーフィングシートの製造所の仕様 ・	※ルーフィングシートの製造所の仕様 ・	・適用する ・適用する ・適用する ・適用する	脱気装置 ⊙設ける ・設けない 改修用ドレン ⊙設ける ・設けない
・S3S	・S-F1 ・S-F2	・プレキャストコンクリート下地 ・		・ルーフィングシートの製造所の仕様 ・	※ルーフィングシートの製造所の仕様 ・	・適用する ・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない
・M4S	・S-M1 ・S-M2			・ルーフィングシートの製造所の仕様 ・	※ルーフィングシートの製造所の仕様 ・	・適用する ・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない
・POSI ・S3SI ・S4SI ・M4SI	・SI-F1	・プレキャストコンクリート下地 ・	改修標準仕様書3.5.2(3)(ｴ)(b) （種類） ・ （厚さ）(mm) ・ ・25 ・50	・ルーフィングシートの製造所の仕様 ・	※ルーフィングシートの製造所の仕様 ・	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない
	・SI-F2	・プレキャストコンクリート下地 ・				・適用する	
	・SI-M1		改修標準仕様書3.5.2(3)(ｴ)(a) （種類） ・ （厚さ）(mm) ・ ・25 ・50			・適用する	
	・SI-M2					・適用する	

⊙塗膜防水

新設防水層の種別 [3.6.2、3]

改修工法	新設種別	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水G	備考
・P0X	※X-1 ・X-2 ・X-1H ・X-2H ・		・主材料の製造所の仕様 ・	※主材料の製造所の仕様 ・	・適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
⊙L4X	・X-1 ※X-2 ・X-1H ・X-2H ・		⊙主材料の製造所の仕様 ・	※主材料の製造所の仕様 ・	・適用する	脱気装置 ・設ける ⊙設けない

ウレタンゴム系塗膜防水X-1の脱気装置の種類及び設置数量

種類 ※主材料の製造所の仕様

・

設置数量 ※主材料の製造所の仕様

・ （個）

新設防水層の種別

改修工法	新設種別	施工箇所	工程数及び各工程の使用量	保護層
・P1Y	※Y-2 ・		※主材料の製造所の仕様 ・	・設ける ・設けない
・P2Y	※Y-2 ・		※主材料の製造所の仕様 ・	・設ける ・設けない

⊙シーリング

シーリング改修工法の種類 [3.1.4] [3.7.2、3、7、8]

・シーリング充填工法

⊙シーリング再充填工法

・拡幅シーリング再充填工法

・ブリッジ工法

ボンドブレーカー張り

・適用する ・適用しない

S-F1、S-M1、S-F2、S-M2の仕様

※非歩行仕様

・軽歩行仕様

SI-M1及びSI-M2における防温用フィルム

・設置する ・設置しない

合成高分子系ルーフィングシートの種類及び厚さ

※改修標準仕様書表3.5.1から表3.5.3による

・JIS A 6008に基づく種類及び厚さ

種類 ・

厚さ ・ mm以上

絶縁用シート及び可塑剤移行防止用シートの材質

※発泡ポリエチレンシート

・

固定金具の材質、形状及び寸法

※厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもの

・

接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量

種類 ※ルーフィングシートの製造所の仕様

・

設置数量 ※ルーフィングシートの製造所の仕様

・ （個）

接着工法の場合のプレキャストコンクリート部材下地の目地処理

・行う（・図示による ・ ）

プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り（種別S-F1、SI-F1の場合）

・行う（・図示による ・ ）

・行わない

機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け

1章 適用区分による風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法

※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度

・

屋上排水溝

※図示による ・

・屋内防水

防水層の種別

種別	施工箇所	保護層 平場のモルタル塗厚	保護層 立上り部の保護モルタル塗厚
・S-C1		・	※7mm以下 ・

平場のモルタル床塗りにおける目地の目地割及び種類

目地割

※目地割2㎡程度、最大目地間隔3m程度

・

目地の種類

※押し目地

・

合成高分子系ルーフィングシートの種類及び厚さ

※改修標準仕様書表3.5.1から表3.5.3による

・JIS A 6008に基づく種類及び厚さ

種類 ・

厚さ ・ mm以上

絶縁用シート及び可塑剤移行防止用シートの材質

※発泡ポリエチレンシート

・

固定金具の材質、形状及び寸法

※厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもの

・

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法

※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度

・

排水溝

※図示による ・

(参考図)

業務名	工事名	令和 7年 7月	課長補佐	図面番号
奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事設計業務（建築）	奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事	縮尺 A1 － A3 －	奈良国立大学機構 機構施設課	特-02
Hiroyuki Takahara & Associates Design Office Inc. 株式会社HTAデザイン事務所 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第20902号	図面名称 特記仕様書-2			

エッジング材張り
・適用する　・適用しない
シーリング材の種類、施工箇所
下表以外は、改修標準仕様書3.7.1による。

施工箇所	シーリング材の種類（記号）

仕上げを行わない施工箇所
・図示による　・
シーリング材の目地寸法
※改修標準仕様書3.7.3(1)による
・図示による
・
接着性試験
※簡易接着性試験
・引張接着性試験

⊙とい　[3.8.2、3]
といその他の材種
・配管用鋼管
⊙硬質ポリ塩化ビニル管
・ルーフドレン（JCW 301による）
・
とい受金物
材種
※改修標準仕様書3.8.2による（溶融亜鉛めっきを行ったもの）
・
形状
※市販品（とい径100以下）
※25×4.5以上（とい径100を超えるもの）
・
取付け間隔
※改修標準仕様書3.8.2による
・
足金物
材種
※改修標準仕様書3.8.2による（溶融亜鉛めっきを行ったもの）
・
形状
※市販品
・
取付け間隔
※改修標準仕様書3.8.2による
・
多雪地域
・適用する　⊙適用しない
防露材のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
既存のといその他の撤去及び降雨等に対する養生方法
・図示による　・
鋼管製といの防露巻き
※改修標準仕様書3.8.4による
・
ルーフドレンの種類及び呼び

種類		呼び	施工箇所
⊙ろく屋根用たて形Ⅰ型	※ねじ込み式	⊙50　・100　・125　・150	
⊙ろく屋根用横形Ⅰ型	※ねじ込み式	・80　⊙100　・125　・150	
・バルコニー中継用	※ねじ込み式	・50　・80　・100	
	・差し込み式	・50　・75　・100	
・バルコニー用	※ねじ込み式	・50　・80　・100	
	・差し込み式	・50　・75　・100	

たてどい受金物の取付け
※図示による　・
ルーフドレンの取付け
※水はけよく、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する
・

・アルミニウム製笠木　[3.9.2、3]
種類
・オープン形式（・押出250形　・押出300形　・押出350形）
・板材折曲げ形（・オープン形式　・シール形式）
本体幅（　　）mm　板厚（※2.0mm　・　　mm）
表面処理
種別　・
色合い等　・次の色とする（　　）　・標準色　・特注色
既存笠木等の撤去
・行う（範囲　・図示による　・　　）
・行わない
下地補修の工法
※図示による　・
板材折曲げ形の笠木の取付方法
※図示による　・
笠木の固定金具の工法等
1章 適用区分による風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法

4　外壁改修工事（共通事項）

⊙施工数量調査　[1.6.2、3]
調査範囲
⊙外壁改修範囲
・図示による
調査内容
ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。
モルタル塗仕上げ及びタイル張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等を調査する。
コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。
塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。また、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。
既存部分の破壊を行った場合の補修方法
・図示による　・
調査報告書（提出部数　⊙2部　・　　）

4-1　外壁改修工事　コンクリート打放し仕上げ外壁

⊙ひび割れ部改修工法
⊙樹脂注入工法　[4.1.4]［4.2.4、5、6、7］

工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量（mL/m）
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0 以下	※200～300 ・	⊙130 ・
・手動式エポキシ樹脂注入工法 ・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3 未満	・50～100 ・	・40 ・
	0.3以上～0.5 未満	・100～200 ・	・70 ・
	0.5以上～1.0 以下	・150～250 ・	・130 ・

注入状況の確認方法
※コアの抜取りを行う
抜取り個数
※長さ500mごと及びその端数につき1個
・
抜取り部の補修方法
※図示による　・
⊙Uカットシール材充填工法
・シーリング材
充填材料の種類
※1成分形又は2成分形ポリウレタン系
・
シーリング材のうえにポリマーセメントモルタルの充填
・行う　・行わない
シーリング材の試験は改修標準仕様書3章　防水改修工事による。
⊙可とう性エポキシ樹脂
・シール工法
・パテ状エポキシ樹脂
・可とう性エポキシ樹脂

⊙欠損部改修工法　[4.1.4]［4.2.4、7］
⊙充填工法
・エポキシ樹脂モルタル
⊙ポリマーセメントモルタル
・

4-2　外壁改修工事　モルタル塗り仕上げ外壁

・ひび割れ部改修工法
・樹脂注入工法　[4.1.4]［4.3.5、6、7、8］

工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量（mL/m）
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0 以下	※200～300 ・	・130 ・
・手動式エポキシ樹脂注入工法 ・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3 未満	・50～100 ・	・40 ・
	0.3以上～0.5 未満	・100～200 ・	・70 ・
	0.5以上～1.0 以下	・150～250 ・	・130 ・

注入状況の確認方法
※コアの抜取りを行う
抜取り個数
※長さ500mごと及びその端数につき1個
・
抜取り部の補修方法
※図示による　・
・Uカットシール材充填工法
・シーリング材
充填材料の種類
※1成分形又は2成分形ポリウレタン系
・
シーリング材のうえにポリマーセメントモルタルの充填
・行う　・行わない
シーリング材の試験は改修標準仕様書3章　防水改修工事による。
・可とう性エポキシ樹脂
・シール工法
・パテ状エポキシ樹脂
・可とう性エポキシ樹脂

・欠損部改修工法　[4.1.4]［4.3.9、10］
・充填工法
・エポキシ樹脂モルタル
・ポリマーセメントモルタル
・モルタル塗替え工法
・現場調合材料
（セメントは改修特記仕様書8-2　コンクリート工事による）
・既調合材料（　　）
既製目地材
・使用する（形状　・図示による　・　　）
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置
※図示による　・

・浮き部改修工法
[4.1.4]［4.3.11～16］

工法の種類	アンカーピンの本数（本/㎡） 一般部	アンカーピンの本数（本/㎡） 指定部	注入口の箇所数（箇所/㎡） 一般部	注入口の箇所数（箇所/㎡） 指定部	注入量（mL/箇所）
・アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・	―	―	※25 ・
・アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25 ・
・アンカーピンニング 全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※50 ・
・注入口付アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	―	―	※25 ・
・注入口付アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25 ・
・注入口付アンカーピンニング 全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50 ・
・充填工法	―	―	―	―	―
・モルタル塗替え工法	―	―	―	―	―

アンカーピンの材質
※ ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの
・
注入口付アンカーピンの材質
※ ステンレス鋼(SUS304)呼び径外径6mm程度
・
充填工法用材料
・エポキシ樹脂モルタル
・ポリマーセメントモルタル
・ポリマーセメントスラリー

広がり速度（cm/s）	長さ変化量（収縮）（%）	引張接着性（材齢28日）（N/mm52）	曲げ性能（材齢28日）（N/mm52）	吸水性（72時間）（%）	耐久性（劣化曲げ強さ）（N/mm52）
3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以下	5.0以上

保水係数　0.35～0.55
粘調係数　0.50～1.00
モルタル塗替え工法用材料
・現場調合材料
（セメントは改修特記仕様書8-2　コンクリート工事による）
・既調合材料（　　）
既製目地材
・使用する（形状　・図示による　・　　）
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置
※図示による　・

4-3　外壁改修工事　タイル張り仕上げ外壁

・タイルの形状、寸法等
タイルの形状、寸法等　[4.4.5、8]

施工箇所	形状/寸法（mm）	再生材料の適用区分	吸水率による区分 Ⅰ類	吸水率による区分 Ⅱ類	吸水率による区分 Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	うわぐすり 無ゆう	役物 有	役物 無	色 標準	色 特注	耐凍害性 有	耐凍害性 無	耐汚染性 有	耐汚染性 無	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする。
見本焼き
・行う（施工箇所：　　）　・行わない
試験張り
・行う（範囲、仕様等は図示による）　・行わない

・ひび割れ部改修工法
・樹脂注入工法　[4.1.4]［4.4.5、6］

工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量（mL/m）
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0 以下	※200～300 ・	・130 ・
・手動式エポキシ樹脂注入工法 ・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3 未満	・50～100 ・	・40 ・
	0.3以上～0.5 未満	・100～200 ・	・70 ・
	0.5以上～1.0 以下	・150～250 ・	・130 ・

注入状況の確認方法
※コアの抜取りを行う
抜取り個数
※長さ500mごと及びその端数につき1個
・
抜取り部の補修方法
・図示による　・

・欠損部改修工法
・タイル部分張替え工法　[4.1.4]［4.4.5、7、8］
接着剤の種類
・ポリマーセメントモルタル
・JIS A 5557に基づく一液反応硬化形変成シリコーン樹脂系
・タイル張替え工法
張替え用材料
・接着剤JIS A 5557に基づく一液反応硬化形変成シリコーン樹脂系
・張付けモルタル　（・現場調合材料　・既調合モルタル）
伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置
※改修標準仕様書表4.4.2による
・図示による
外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整剤塗りの接着力試験
・行う　・行わない
・セメントモルタルによるタイル（セラミックタイル）張り
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
・目荒し工法（改修標準仕様書4.3.10(3)による）
・
タイル張りの工法
・外装タイル
・密着張り　・改良圧着張り
・ユニットタイル
・マスク張り　・モザイクタイル張り
シーリング　改修特記仕様書3章　防水改修工事による。

・浮き部改修工法
・有機系接着剤によるタイル（セラミックタイル）張り
モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
・目荒し工法（改修標準仕様書4.3.10(3)による）
・
シーリング材の種類
打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地
※ポリウレタン系
・
伸縮調整目地その他の目地
※変成シリコーン系
・
シーリングのその他事項は、改修特記仕様書3章　防水改修工事による。

・浮き部改修工法
[4.1.4]［4.4.5、9～15］［4.5.9～15］

工法の種類	アンカーピンの本数（本/㎡） 一般部	アンカーピンの本数（本/㎡） 指定部	注入口の箇所数（箇所/㎡） 一般部	注入口の箇所数（箇所/㎡） 指定部	注入量（mL/箇所）
・アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・	―	―	※25 ・
・アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25 ・
・アンカーピンニング 全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※50 ・
・注入口付アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	―	―	※25 ・
・注入口付アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25 ・
・注入口付アンカーピンニング 全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50 ・
・注入口付アンカーピンニング エポキシ樹脂注入タイル固定工法	・	・	―	―	※25 ・
・タイル部分張り替え工法	―	―	―	―	―
・タイル張り替え工法	―	―	―	―	―

アンカーピンの材質
※ ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの
・
注入口付アンカーピンの材質
※ ステンレス鋼(SUS304)呼び径外径6mm程度
・
・タイル部分張替え工法
接着剤の種類
・ポリマーセメントモルタル
・JIS A 5557に基づく一液反応硬化形変成シリコーン樹脂系
・タイル張替え工法
張替え用材料
・接着剤JIS A 5557に基づく一液反応硬化形変成シリコーン樹脂系
・張付けモルタル　（・現場調合材料　・既調合モルタル）
伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置
※改修標準仕様書表4.4.2による
・図示による
外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整剤塗りの接着力試験
・行う　・行わない
・セメントモルタルによるタイル（セラミックタイル）張り
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
・目荒し工法（改修標準仕様書4.3.10(3)による）
・
タイル張りの工法
・外装タイル
・密着張り　・改良圧着張り
・ユニットタイル
・マスク張り　・モザイクタイル張り
シーリング　改修特記仕様書3章　防水改修工事による。
・有機系接着剤によるタイル（セラミックタイル）張り
モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
・目荒し工法（改修標準仕様書4.3.10(3)による）
・
シーリング材の種類
打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地
※ポリウレタン系
・
伸縮調整目地その他の目地
※変成シリコーン系
・
シーリングのその他事項は、改修特記仕様書3章　防水改修工事による。

・目地改修工法
・目地ひび割れ部改修工法　[4.1.4]［4.4.5、16］
・伸縮調整目地改修工法
伸縮調整目地の位置及びずれ法
・図示による　・
シーリングは、改修特記仕様書第3章　防水改修工事による。

4-4　外壁改修工事　塗り仕上げ外壁

⊙既存塗膜等の除去
下地処理及び下地調整
[4.5.4]

工法	処理範囲	下地面の補修
・サンダー工法	※既存仕上げ面全体 ・図示による	⊙ひび割部改修工法 ⊙浮き部改修工法 ⊙欠損部改修工法
⊙高圧水洗工法	※既存仕上げ面全体 ・図示による	
・塗膜はく離剤工法	※既存仕上げ面全体 ・図示による	
・水洗い工法	※サンダー工法、高圧水洗工法、塗膜はく離剤工法の処理範囲以外の既存仕上面全面 ・図示による	

⊙下地調整塗材　[4.5.2]
※下地調整塗材
・ポリマーセメントモルタル

（参考図）

業務名 奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事設計業務（建築）	Hiroyuki Takahara & Associates Design Office Inc. 株式会社HTAデザイン事務所 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第20902号	工事名 奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事 図面名称 特記仕様書-3	令和 7年 7月 縮尺 A1 － A3 －	奈良国立大学機構 機構施設課	課長補佐	図面番号 特-03

⊙ 仕上塗材仕上げ

新規仕上塗材の種類 [4.1.5][4.5.2][表4.5.1]

⊙薄付け仕上塗材

種類（呼び名）	仕上げの形状	工法	調温形	防火材料
⊙外装薄塗材E	⊙砂壁状 ・	⊙吹付け ・ﾛｰﾗｰ塗り	・適用する	・
・可とう形外装薄塗材E	・砂壁状 ・	・吹付け ・	・適用する	・
・防水形外装薄塗材E	・凹凸状 ・	・吹付け ・ﾛｰﾗｰ塗り	・適用する	・
・内装薄塗材	・砂壁状じゅらく ・	・吹付け ・	・適用する	・
・	・	・	・適用する	・

・厚付け仕上塗材

種類（呼び名）	仕上げの形状	工法	調温形	上塗材	防火材料
・			・適用する	・適用する	・
・			・適用する	・適用する	・

⊙複層仕上塗材

種類（呼び名）	仕上げの形状	工法	上塗材の種類	耐候性	防火材料
⊙複層塗材E	・凸部処理	吹付け	樹脂 ・ 外観 ・ 溶媒 ・	・耐候形 1種 ・耐候形 2種 ・耐候形 3種	・
	⊙凹凸状	吹付け	・	・	・
	・ゆず肌状	ﾛｰﾗｰ塗り	・	・	・
・複層塗材RE	・凸部処理	吹付け	・	・	・
	・凹凸状	吹付け	・	・	・
	・ゆず肌状	ﾛｰﾗｰ塗り	・	・	・
・複層塗材Si	・凸部処理	吹付け	・	・	・
	・凹凸状	吹付け	・	・	・
	・ゆず肌状	ﾛｰﾗｰ塗り	・	・	・
・防水形複層塗材E	・凸部処理	吹付け	・	・	・
	・凹凸状	吹付け	・	・	・
	・ゆず肌状	ﾛｰﾗｰ塗り	・	・	・
・			・	・	・

・可とう形改修用仕上塗材

種類（呼び名）	仕上げの形状	工法	上塗材の種類	耐候性	防火材料
・			樹脂 ・ 外観 ・ 溶媒 ・	・耐候形 1種 ・耐候形 2種 ・耐候形 3種	・
・	・	・	・	・	・

・ マスチック塗材塗り

種別 [4.1.5] [4.6.2] [表4.6.1]
・A種　・B種

・ 外壁用塗膜防水材塗り

仕上げの形状 [4.1.5][4.7.2,3][表4.7.1]
・
工法
・
仕上塗料の耐候性
・
下地挙動緩衝材の適用
・適用する
・適用しない
コンクリート面のひび割れ部及び欠損部の処理は、改修特記仕様書4章 外壁改修工事
（コンクリート打ち放し仕上げ外壁改修）による。
モルタル面のひび割れ部、欠損部及び浮き部の処理は、改修特記仕様書4章 外壁改修工事
（モルタル塗り仕上げ外壁改修）による。
吹付け工法の模様材の種類
・　（・所要量　(kg/㎡)）
外壁用仕上塗料の種類
・　（・所要量　(kg/㎡)）
既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整は、改修特記仕様書4章 外壁改修工事
（塗仕上げ外壁等改修）による。

5 建具改修工事

⊙ 改修工法 [5.1.3]

建具の種類		かぶせ工法	撤去工法	適用箇所
⊙アルミニウム製建具		⊙	・	⊙建具表による　・
・樹脂製建具		―	・	・建具表による　・
⊙鋼製建具	⊙外部	・	・	⊙建具表による　・
	⊙内部	・	・	⊙建具表による　・
⊙鋼製軽量建具		・	・	⊙建具表による　・
・ステンレス製建具		・	・	・建具表による　・
⊙木製建具		・	⊙	⊙建具表による　・

新規に建具を設ける場合
壁部分の開口の開け方
※図示による　・
新規建具周囲の補修工法及び範囲
※図示による　・
建具周囲のシーリングは、改修特記仕様書3章　防水改修工事による。

⊙ 防火戸

⊙指定する　適用箇所（⊙建具表による　・　） [5.1.4]
・指定しない
防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸とヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動
・連動させる　適用箇所（・建具表による　・　）
・連動させない

⊙ 見本の製作等

建具見本の製作　・行う（建具符号：　） [5.1.5]
⊙行わない
建具見本製作の目的等　・
特殊な建具の仮組　・行う（建具符号：　）
⊙行わない

⊙ 防犯建物部品

・適用する（・建具表による　・　） [5.1.7]
⊙適用しない

⊙ アルミニウム製建具

性能値等 [5.2.2～5][表 5.2.2]
耐風圧性の等級（⊙ S-4 ）
（建具符号　・建具表による　・　）
気密性の等級　（⊙ A-3 ）
（建具符号　・建具表による　・　）
水密性の等級　（⊙ W-4）
（建具符号　・建具表による　・　）
外部に面する建具の種別
⊙A種（建具符号　⊙建具表による　・　）
・B種（建具符号　・建具表による　・　）
・C種（建具符号　・建具表による　・　）
枠の見込み寸法
（⊙建具表による　・　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　）
断熱ドア・断熱サッシ G
断熱性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　）
材料
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI
・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL
・
形状及び仕上げ
表面処理
外部に面する建具
種別
・BB-1　・BB-2（改修標準仕様書表5.2.2）
着色
・標準色　・特注色
屋内の建具
種別
・BC-1　・BC-2（改修標準仕様書表5.2.2）
着色
・標準色　・特注色
結露水の処理方法
・水貯め式　・排水式
工法
水切り板、ぜん板
※図示による　・

⊙ 網戸等 [5.2.3、5.3.3]

種類	材質	線径	網目
・防虫網	※合成樹脂製 ⊙ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス(SUS316)製	※0.25mm以上 ・	※16～18メッシュ ・
・防鳥網	ステンレス(SUS304)線材	1.5mm	網目寸法15mm

・ 樹脂製建具

性能値等 [5.2.2][5.3.2～5]
耐風圧性の等級（　）
気密性の等級　（　）
水密性の等級　（　）
外部に面する建具の種別
・A種（建具符号　・建具表による　・　）
・B種（建具符号　・建具表による　・　）
・C種（建具符号　・建具表による　・　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　）
断熱ドア・断熱サッシ G
断熱性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　）
外部に面する建具の日射熱取得性の等級
・
枠の見込み寸法
・建具表による
・
材料
ガラス
※複層ガラス
・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL
・
形状及び仕上げ
表面色
・標準色　・特注色
工法
水切り板、ぜん板
※図示による　・

・ 鋼製建具

性能値等 [5.2.2][5.4.2～6]
簡易気密型ドアセット
・適用する
（建具符号：・建具表による　・　）
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性
耐風圧性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　）
断熱ドア・断熱サッシ G
断熱性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　）
耐震ドア
面内変形追随性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　）
材料
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI
・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL
・
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ
※改修標準仕様書表5.4.2による
・　mm　使用箇所（　）
標準型鋼製建具の形式及びす法
※建具表による
・

⊙ 鋼製軽量建具

性能値等 [5.2.2][5.5.2～6]
簡易気密型ドアセット
・適用する
（建具符号：・建具表による　・　）
⊙適用しない
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　）
断熱ドア・断熱サッシ G
断熱性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　）
耐震ドア
面内変形追随性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　）
材料
鋼板
⊙亜鉛めっき鋼板
・ビニル被覆鋼板
・カラー鋼板
・ステンレス鋼板
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI
・
召合わせ、縦小口包み板の材質
※鋼板
・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL
・
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ
※改修標準仕様書表5.5.1による
・　mm　使用箇所（　）
標準型鋼製軽量建具の形式及びす法
※建具表による
・

・ ステンレス製建具

性能値等 [5.2.2] [5.4.2] [5.6.2～5]
簡易気密型ドアセット
・適用する
（建具符号：・建具表による　・　）
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性
耐風圧性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　）
断熱ドア・断熱サッシ G
断熱性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　）
耐震ドア
面内変形追随性の等級（・　）
（建具符号：・建具表による　・　）
材料
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI
・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL
・
形状及び仕上げ
表面仕上げ
※HL
・鏡面仕上げ
工法
ステンレス鋼板の曲げ加工
※普通曲げ
・角出し曲げ

・ 木製建具

建具材の加工、組立時の含水率 (5.7.2～4)
※A種　・
建物内部の木製建具に使用する接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
・フラッシュ戸
表面材のホルムアルデヒド放散量等
※改修標準仕様書5.7.2(2)(イ)(a)による
・
表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
・普通合板 G	表面の樹種 ・ 板面の品質（※広葉樹1等　・　） 接着の程度（・1類　・2類）	
・天然木化粧合板 G	樹種名（　） 接着の程度（・1類　・2類）	
・特殊加工化粧合板 G	化粧加工の方法 ※プリント ・ポリエステル化粧合板 ・メラミン化粧合板 ・ 接着の程度（・1類　・2類）	
・MDF G		

表面板の厚さ
※改修標準仕様書表5.7.6による
・
引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用
・適用しない　・適用する
・かまち戸
かまち樹種（　）　鏡板樹種（　）
見込み寸法
※36mm　・建具表による　・
・ふすま
張りの種別（・Ⅰ型　・Ⅱ型）
上張り（押入等の裏側以外）
・鳥の子　・新鳥の子又はビニル紙程度
縁仕上げ
・塗り縁　・生地縁（素地）　・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
見込み寸法
※19.5mm　・建具表による　・
・戸ぶすま
表面板の仕上　・建具表による
見込み寸法
※30mm　・建具表による　・
・紙張り障子
見込み寸法
※30mm　・建具表による　・
枠、くつずりの材料
・建具表による　・

⊙ 建具用金物

金物の種類及び見え掛り部の材質等 [5.8.1～3]
※改修標準仕様書表5.8.1により適用は建具表による
・
金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※改修標準仕様書表5.8.2による
・建具表による
樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※改修標準仕様書表5.8.3による
・建具表による
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※改修標準仕様書表5.8.4による
・建具表による
木製建具に使用する戸車及びレール
※改修標準仕様書表5.8.5による
・建具表による
握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置
・建具表による
・
・錠前類
※シリンダ箱錠及びシリンダ本締まり錠

⊙ 鍵

マスターキー [5.8.4]
・製作する
・製作しない
⊙既存のマスターキーに合わせる
その他の鍵の製作本数
※各室3本1組（室名札付き）
・
鍵箱
⊙無し　・有り

(参考図)

業務名 奈良教育大学（高畑）技術棟等 改修工事設計業務（建築）	Hiroyuki Takahara & Associates Design Office Inc. 株式会社HTAデザイン事務所 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第20902号	工事名 奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事	令和 7年 7月	奈良国立大学機構 機構施設課	課長補佐
		図面名称 特記仕様書-4	縮尺 A1 － A3 －		図面番号 特-04

・自動ドア開閉装置

戸の開閉方式 [5.9.2、3]
・建具表による ・
・引き戸用駆動装置
性能値
※改修標準仕様書表5.9.1による （防錆 ・適用する ・適用しない）
・以下による
種類・開閉方式 （ ）
耐電圧 （ ）
温度上昇 （ ）
耐久性（サイクル） （ ）
防錆 （ ）
電源 （ ）
・車椅子使用者用便房出入口引き戸用駆動装置
性能値
※改修標準仕様書表5.9.2による （防錆 ・適用する ・適用しない）
・以下による
耐電圧 （ ）
温度上昇 （ ）
耐久性（サイクル） （ ）
防錆 （ ）
電源 （ ）
・引き戸用検出装置
性能値
※改修標準仕様書表5.9.3による （防錆 ・適用する ・適用しない）
・以下による
耐電圧 （ ）
防錆 （ ）
防滴 （ ）
電源 （ ）
引き戸用検出装置の種類及び必要性能項目
・建具表による
・
タッチスイッチの種類
・無線式タッチスイッチ
・光線式タッチスイッチ
車椅子使用者用便房スイッチの種類
・大型押しボタンスイッチ
・非接触スイッチ
凍結防止措置
・行う ・行わない

・自閉式上吊り引戸装置

性能値等 [5.10.3]
※改修標準仕様書表5.10.1による
・以下による
手動開き力 （ ）
手動閉じ力 （ ）
閉じ速度の調整 （ ）
制動区間 （ ）
開閉繰返し （ ）
耐衝撃性 （ ）

・重量シャッター

シャッターの種類 [5.11.2、3]
・管理用シャッター
・外壁用防火シャッター
・屋内用防火シャッター
・防煙シャッター
外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度
1章 適用区分による風圧力（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
開閉方式の種類
※電動式（手動併用）
・手動式
安全装置
電動式シャッターの急降下制動装置、急降下停止装置
※設ける （設置箇所 ・建具表による ・ ）
・設けない（設置箇所 ・建具表による ・ ）
電動式シャッターの障害物感知装置
※設ける （設置箇所 ・建具表による ・ ）
・設けない（設置箇所 ・建具表による ・ ）
屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止装置
※設ける （設置箇所 ・建具表による ・ ）
・設けない（設置箇所 ・建具表による ・ ）
管理用シャッターのシャッターケース
・設ける ・設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類
・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量
※Z12又はF12 ・
ガイドレール、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のカバー、雨掛りに用いるスイッチボックス類のふたの材質
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI
・

・軽量シャッター

開閉方式の種類 [5.12.2～4]
※手動式
・上部電動式（手動併用）
耐風圧強度
1章 適用区分による風圧力（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
安全装置
電動シャッターの障害物感知装置
※設ける （設置箇所 ・建具表による ・ ）
・設けない（設置箇所 ・建具表による ・ ）
スラットの材質の種類
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量（※Z06又はF06 ・ ）
・JIS G 3322（塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量（※AZ90 ・ ）

・オーバーヘッドドア

スラットの形状
・インターロッキング形
・オーバーラッピング形

[5.13.2、3]

セクション材料による区分	耐風圧性能区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材料
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・50 ・75 ・100 ・125	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

電動式オーバーヘッドドアの障害物感知装置
※設ける （設置箇所 ・建具表による ・ ）
・設けない（設置箇所 ・建具表による ・ ）

⊙ガラス

⊙フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類 [3.7][5.14.2～4]
⊙建具表による
・
⊙型板ガラスの厚さによる種類
⊙建具表による
・
⊙網入板ガラス及び線入板ガラスの網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類
⊙建具表による
・合わせガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ
・建具表による
・
落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類
・Ⅰ類 ・Ⅱ-1類 ・Ⅱ-2類 ・Ⅲ類
・強化ガラス
形状による種類、材料板ガラスの種類による名称
・建具表による
・
破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類
・Ⅰ類 ・Ⅲ類
・熱線吸収板ガラス
板ガラスによる種類、厚さによる種類
・建具表による
・
性能による種類
・1種 ・2種
⊙複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ
⊙建具表による
・
断熱性による区分
⊙T1 ・T2 ・T3 ・T4 ・T5 ・T6
日射取得性、日射遮蔽性による区分
⊙3 ・S
乾燥気体の種類
⊙空気 ・アルゴン ・
・熱線反射ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
・建具表による
・
日射熱遮蔽性による区分
・1種 ・2種 ・3種
耐久性による区分（日射熱遮蔽性による区分が2種の場合）
・A類 ・B類
・倍強度ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
・建具表による
・

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	⊙シーリング材 ・グレイジングガスケット ・	※建具の製造所の仕様による ・図示による ・
鋼製及び鋼製軽量	⊙シーリング材 ・	※建具の製造所の仕様による ・図示による ・
ステンレス製	・シーリング材 ・	※建具の製造所の仕様による ・図示による ・
樹脂製	・グレイジングガスケット ・	※建具の製造所の仕様による ・図示による ・

耐震性能
構造体の層間変形に対する追従性
以下の構造体の層間変形角に対して、破損、脱落が生じないよう取り付けられているものとする。
構造体の層間変形角 ・1/100
・1/200
・

・ガラスブロック

[5.14.5]

表面形状	呼び寸法（mm）	厚さ(mm)	色調	目地幅（mm）	伸縮調整目地位置（mm）	防火性能
	・160×160	・95 ・				
	・200×200	・95 ・				

・ガラス用フィルム

壁用金属枠及び補強材
※図示による ・
力骨
材質
※ステンレス鋼(SUS304)
・
寸法
※径5.5mm ・
形状
※はしご形状複筋及び単筋
・
化粧目地モルタルの色（・白 ・グレー）
シーリングの種類 （・SR-1 ・PS-1）
金属製化粧カバー
材質
・ステンレス製
・アルミニウム製
寸法
※図示による ・
形状
※図示による ・
目地部の横力骨の納まり
※ガラスブロック製造所の仕様による
・図示による
・
工法
1章 適用区分による風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法

種類	記号		その他性能等
	内貼り用	外貼り用	
・日射調整フィルム G	・SC-1	・SC-2	
・低放射フィルム	・LE		
・衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・GI-1	・GI-2	
・相関変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・GD-1	・GD-1	
・ガラス貫通防止フィルム	・SF		
・	・	・	

品質は、JIS A 5759による。

6 内装改修工事

⊙改修範囲

既存間仕切壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁及び床の改修範囲 [6.1.3]
※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
・図示による
天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲
※壁面より両側 600mm 程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
・図示による
既存天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修
※既存のまま
・図示による

⊙既存床の撤去及び下地補修

ビニル床シート等の除去 [6.2.2]
※仕上材のみ（接着剤とも）
・下地モルタルとも（・図示による ・除去範囲全て）
合成樹脂塗床材の除去工法
・機械的除去工法
・目荒し工法
既存のコンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、改修標準仕様書4章外壁改修工事による。
改修後の床の清掃範囲
※図示による ・

⊙既存壁の撤去及び下地補修

間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 [6.3.2]
※改修標準仕様書4.4.9によるモルタル塗り
（全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※図示による）
・

⊙施工一般

材料のホルムアルデヒド放散量 [6.5.2]
※F☆☆☆☆又は改修標準仕様書6.5.2(1)(ウ)(b)による ・

・製材 G

・JAS 1083-5 製材・第5部に基づく下地用製材 [6.5.2]

施工箇所	寸法（mm）	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
		※2級 ・	※A種 ・B種 ・		・
		※2級 ・	※A種 ・B種 ・		・
		※2級 ・	※A種 ・B種 ・		・

・JAS 1083-2 製材・第2部に基づく造作用製材

施工箇所	寸法（mm）	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
見え掛り面		※上小節 ・	※A種 ・B種 ・		・
見え掛り面以外		※小節以上 ・	※A種 ・B種 ・		・
					・

・JAS 1083-6 製材・第6部に基づく広葉樹製材

施工箇所	寸法（mm）	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
		※1等 ・	※10%以下 ・A種 ・B種 ・		・
		※1等 ・	※10%以下 ・A種 ・B種 ・		・
		※1等 ・	※10%以下 ・A種 ・B種 ・		・

・造作用集成材 G

・JAS 1083（製材）以外の製材

施工箇所	寸法（mm）	材面の品質	防虫処理	含水率	間伐材等の適用
		（ ） 造作材の場合 （※A種 ・B種）	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種 ・	・
		（ ） 造作材の場合 （※A種 ・B種）	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種 ・	・
		（ ） 造作材の場合 （※A種 ・B種）	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種 ・	・

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 [6.5.2]

施工箇所	品名	樹種名	寸法（mm）	見付け材面	見付け材面の品質	間伐材等の適用
					※1等 ・2等	・
					※1等 ・2等	・
					※1等 ・2等	・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	品名	樹種名	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面	見付け材面の品質	間伐材等の適用
		化粧薄板： 芯材：				※1等 ・2等	・
		化粧薄板： 芯材：				※1等 ・2等	・
		化粧薄板： 芯材：				※1等 ・2等	・

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法（mm）	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
				※15%以下 ・	・
				※15%以下 ・	・
				※15%以下 ・	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下 ・	・
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下 ・	・
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下 ・	・

・造作用単板積層材 G

・JAS 0701に基づく造作用単板積層材 [6.5.2]

施工箇所	品名	寸法(mm)	表面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
				・適用する ・適用しない	・

・JAS 0701以外の造作用単板積層材

施工箇所	寸法(mm)	表面の品質	含水率	防虫処理	間伐材等の適用
			※14%以下 ・	・適用する ・適用しない	・

・JAS 3079に基づく直交集成板

施工箇所	品名	強度等級	種別	接着性能（使用環境）	樹種名	寸法（mm）	間伐材等の適用
							・

⊙合板等

⊙「合板の日本農林規格」による普通合板 G [6.5.2]

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
壁面木板、	※5.5 ⊙図示		※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上 ・1等 針葉樹 ※C-D以上 ・	・適用する ⊙適用しない	・
内部建具周囲	9.0					

⊙「合板の日本農林規格」による構造用合板 G

施工箇所	品名	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ(mm)	防虫処理	保存処理	強度等級	間伐材等の適用
内部壁面	・	※2級以上 ・1級		※1類 ・特類	※C-D 以上 ・	※12 ・	・適用する ・適用しない		・適用する （ ） ・適用しない	
										・
										・

(参考図)

業務名	奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事設計業務（建築）
	Hiroyuki Takahara & Associates Design Office Inc. 株式会社HTAデザイン事務所 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第20902号
工事名	奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事
図面名称	特記仕様書-5
令和 7年 7月	縮尺 A1 － A3 －
奈良国立大学機構 機構施設課	課長補佐
図面番号	特-05

・「会板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板 G

施工箇所	品名	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理	間伐材等の適用
	・			・1類 ・特類	・適用する ・適用しない	

・「会板の日本農林規格」による天然木化粧合板 G

施工箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ(mm)	接着の程度	防虫処理
			・1類 ・2類	・適用する ・適用しない

・「会板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理
		・1類 ・2類			・適用する ・適用しない

・パーティクルボード G

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ(mm)
		※13タイプ ・	※PZはM ・		※15 ・

・MDF G

施工箇所	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分

⊙接合具等　造作材の化粧面の釘打ち　[6.5.3]
※隠し釘打ち
・釘頭埋め木
・つぶし頭釘打ち
・釘頭現し
諸金物
※かすがい、座金、箱金物、短冊金物
（改修標準仕様書6.5.3～5に示す程度の市販品　表8.20.1のF種程度）
・　（形状：　寸法：　材質：　）

⊙接着剤　接着剤のホルムアルデヒド放散量　[6.5.3、4]
※F☆☆☆☆
・

・防腐・防蟻処理　・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理　[6.5.5]

適用部材	保存処理性能区分
	・K2　・K3　・K4

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部材	処理の方法	薬剤の種類
	※改修標準仕様書6.5.5(1)(b)②による ・	※JIS K 1571に適合又は同等品
	・	
	・	

・薬剤の接着材への混入による防腐、防蟻処理
適用部位（　）
・合板等の加圧注入処理等の適用
適用部位（　）

・内部間仕切軸組及び床組み　・間仕切軸組に用いる木材の樹種名(製材を用いる場合)　[6.5.6]
※杉又は松
・
・床組に用いる木材の樹種名(製材を用いる場合)
※杉又は松
・

・窓、出入口その他　・窓、出入口その他に用いる木材の樹種名(製材を用いる場合)　[6.5.7]
※吊元枠、水掛りの下枠及び敷居はひのき、その他は松又は杉
・

⊙軽量鉄骨天井下地　野縁等の種類　[6.6.2～4]
屋外
※25形　・19形
屋内
※19形　・25形
屋外の形式及び寸法
野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔
・図示による　・
周辺部の端からの間隔
・図示による　・
野縁の間隔
・図示による　・
既存の埋込みインサート
・使用する　・使用しない
あと施工アンカーの確認試験
⊙行う
試験箇所数　※屋内の場合、当該階において3箇所
・(　)箇所
確認強度　※吊りボルト受け等の間隔が900mm程度以下かつ天井面積構成部材等の単位面積あたりの質量が20kg/㎡以内の天井の場合は400N程度
・(　)N
・行わない
補強方法等
・吊りボルトの間隔が900mmを超える場合
（補強方法　※図示による　・　）
・天井のふところが3.0mを超える場合
（補強方法　※図示による　・　）
・天井下地材における耐震性を考慮した補強
（補強箇所　※図示による　・　）
（補強方法　※図示による　・　）
耐震性能
・軽量鉄骨天井下地(特定天井)
範囲
・図示による　・
特定天井の設計用震度及びクリアランスは以下による。
特定天井告示（平成25年国土交通省告示771号）による
特定天井の設計用震度　検証ルート（　）

室名	階	設計用水平震度(K H)	設計用鉛直震度(K V)	クリアランス(mm)
		・	・	・
		・	・	・
		・	・	・

⊙軽量鉄骨壁下地　スタッド、ランナの種類　[6.7.3、4][表6.7.1]
※改修標準仕様書表6.7.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類
・図示による
・
スタッドの高さが5.0mを超える場合
※図示による　・
出入口及びこれに準ずる開口部の補強
※改修標準仕様書6.7.4(5)による
・

⊙ビニル床シート G　[6.8.2、3]

種類の記号	色柄	厚さ（mm）	備考
※FS(複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ) ・	・無地 ⊙マーブル柄 ⊙柄物	※2.0 ・	

目地処理する場合の工法
※熱溶接工法　・

⊙ビニル床タイル G　[6.8.2]

種類の記号	色柄	寸法（mm）	厚さ（mm）	備考
・TT(単層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ)	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450 ・	・2.0 ・	
・FT(複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ)	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450 ・	・2.0 ・2.5 ・3.0	
※KT(ｺﾝﾎﾟｼｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ)	・無地 ⊙柄物	⊙300×300 ・450×450 ・	※2.0 ・3.0	
・FOA(置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ)	・無地 ・柄物	・500×500 ・	・4.0 ・	
・FOB(薄型置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ)	・無地 ・柄物	・	・	

⊙特殊機能床材　[6.8.2]
・帯電防止床シート
種類　（　）
性能　（　）
厚さ(mm)（　）
・帯電防止床タイル
種類　（　）
性能　（　）
寸法(mm)（　）×（　）
厚さ(mm)（　）
⊙視覚障害者用床タイル
視覚障害者誘導用ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列はJIS T 9251による。
種類　（　）
形状　（　）
・耐動荷重性床シート
種類　（　）
厚さ(mm)（　）
・防滑性床シート
種類　（　）
厚さ(mm)（　）
・防滑性床タイル
種類　（　）
寸法(mm)（　）×（　）
厚さ(mm)（　）

⊙ビニル幅木　材質の種類　[6.8.2]
⊙軟質　・硬質
高さ(mm)
※60　・75　⊙100
厚さ(mm)
※1.5以上　・

・ゴム床タイル　種類　[6.8.2]
・単層品　・積層品
色柄　（　）
厚さ(mm)
・3.0　・4.5　・6.0　・9.0
寸法(mm)（　）×（　）

⊙カーペット敷き G
・織じゅうたん　[6.9.2、3][表6.9.1]

織り方	パイル形状
・ウィルトンカーペット ・ダブルフェースカーペット ・アキスミンスターカーペット	・カットパイル ・ループパイル ・カット/ループパイル

色柄
※模様のない無地
パイル糸の繊維種等
※無地の織りじゅうたんの種別（・A種　・B種　・C種）
・
帯電性
・適用する　・適用しない
織じゅうたんの接合方法
※ヒートボンド工法
・つづり縫い
下敷き材
※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種1号　呼び厚さ 8mm
・
・タフテッドカーペット

パイル形状	ﾊﾟｲﾙ長さ（mm）	工法	帯電性	備考
・カットパイル	・5～7　・	・全面接着工法 ・ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ工法	・適用する ・適用しない	
・ループパイル	・4～6　・			
・カット、ループ併用	・			

下敷き材(グリッパー工法の場合)
※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ 8mm
・
タフテッドカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

⊙タイルカーペット

パイルの形状	種類	施工箇所	寸法（mm）	縦厚さ（mm）	備考
※ループパイル	※第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	
・カットパイル	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	
・カット・ループ併用	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	

タイルカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
タイルカーペットの敷き方
平場
※市松敷き
・模様流し
・
階段部分
※模様流し
・市松敷き
・
見切り、押え金物
材質（　）
種類（　）
形状等
※図示による　・

⊙合成樹脂塗床　[6.10.2、3]

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床		・薄膜流しのべ工法 ・厚膜流しのべ工法 ・樹脂モルタル工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
⊙薄膜型塗床材			※平滑仕上げ

塗床材のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
薄膜型塗床材：薄膜型水性アクリル樹脂系防塵塗料（ABC商会：カラートップA）同等品

・フローリング張り G
フローリングのホルムアルデヒドの放散量等　[6.11.2～6]
※改修標準仕様書6.11.2(2)のいずれか
・
各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量
※F☆☆☆☆　・

・単層フローリング　（フローリングボード1等）
工法
・釘留め工法（・根太張り　・直張り　）
・接着工法
樹種
※なら　・
間伐材等の適用
・適用する　・適用しない

・単層フローリング　（フローリングブロック1等）
樹種
・
厚さ（mm）
・
大きさ
・
間伐材等の適用
・適用する　・適用しない
・複合フローリング
工法
・釘留め工法（・根太張り　・直張り　）
・接着工法
樹種
※なら　・
種別
・A種　・B種　・C種
間伐材等の適用
・適用する　・適用しない

接着工法の場合の不陸緩和材
※合成樹脂発泡シート
・
・現場塗装仕上げ
※ウレタン樹脂ワニス塗り
・オイルステインの上、ワックス塗り
・生地のままワックス塗り

・畳敷き　種別　[6.12.2]
・A種　・B種　・C種　・D種（畳床：・KT-Ⅰ・KT-Ⅱ・KT-Ⅲ・KT-K・KT-N）
下地の種類
・標準仕様書表12.6.1による床組
・ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン G
・
畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。
衝撃緩和型畳（畳表：・C1　・C2）

⊙せっこうボード、その他のボード及び合板張り　MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量　[6.13.2、3]
※F☆☆☆☆　・
合板のホルムアルデヒド放散量
※改修標準仕様書6.13.2(2)(イ)の(a)～(d)のいずれか
・
接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
表面への化粧張り等の加工
※図示による　・

種類等	厚さ(mm)、規格等
木質系セメント板 G	
・木毛セメント板 ・硬質(HW)・中質(MW)・普通(NW)	※図示による　・15　・20　・25
・木片セメント板 ・硬質(HF)・普通(NF)	※図示による　・12　・15　・18　・21　・30
繊維強化セメント板	
・けい酸カルシウム板(タイプ2) 普通ボード 0.8FK	※図示による　・6　・8
火山性ガラス質複層板	
・火山性ガラス質複層板 種類　※図示による　・	※図示による　・
繊維板 G	
・ﾐﾃﾞｨｱﾑﾃﾞﾝｼﾃｨﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾞｰﾄﾞ(MDF)	※図示による　・3　・7　・9　・12　・
・ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（無処理） ・素地ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・未研磨板（RN） ・研磨板（RS） ・内装用化粧ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（DI） ・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（処理） ・素地ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・未研磨板（RN） ・研磨板（RS） ・外装用化粧ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（DE）	※図示による　・2.5　・3.5　・5　・7　・
・ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞ ・A級ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞ（A-IB） ・天井仕上げ材 ・内装仕上げ材	※図示による　・9　・12　・15　・18
ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ G	
・単板張りﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ ・無研磨板（VN） ・研磨板（VS）	※図示による　・10　・12　・15　・18　・
・化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ ・単板ｵｰﾊﾞｰﾚｲ（DV） ・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｵｰﾊﾞｰﾚｲ（DO） ・塗装（DC）	※図示による　・10（難燃）　・12（難燃）　・

(参考図)

吸音材料

・ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板（DR） ・ﾌﾗｯﾄﾀｲﾌﾟ ・凹凸ﾀｲﾌﾟ	※図示による ・9（不燃）　・12（不燃） ・12（不燃）　・15（不燃）
・ﾛｯｸｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ（・1号　・　）	※図示による　・25　・
・ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ（・32K　・　）	※図示による ・25（ｶﾞﾗｽｸﾛｽ包み）　・

せっこうﾎﾞｰﾄﾞ

⊙せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-R）	※図示による　・9.5（準不燃） ・12.5（不燃）　・15（不燃）　・
⊙ｼｰｼﾞﾝｸﾞせっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-S）	※図示による ・12.5（・不燃　・準不燃）
・強化せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-F）	※図示による ・12.5（不燃）　・15（不燃）
⊙化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-D）	※図示による ・木目　12.5（不燃）幅 440mm 程度 模様（・柾目　・板目）　専用下地材有り ・トラバーチン模様　9.5（準不燃）
・せっこうﾗｽﾎﾞｰﾄﾞ（GB-L）	※図示による　・9.5　・
・不燃積層せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-NC） ・化粧無し（下地張り用） ・化粧有り（ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様）	※図示による ・9.5（不燃）

合板類

⊙普通合板 G 表板の樹種名： 板面品質： 防虫処理 ・行う　⊙行わない	※図示による ・
・天然木化粧合板 G 化粧板の樹種名： 防虫処理 ・行う　・行わない	※図示による ・
・特殊加工化粧合板 G 化粧加工の方法 ・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ　・ﾌﾟﾘﾝﾄ　・塗装　・ 表面性能 ・ 防虫処理 ・行う　・行わない	※図示による ・

⊙化粧パネル：メラミン不燃化粧板　t＝3.0　（ＯＮﾀｲﾙ工法同等）
天井のボード類(ロックウール吸音板を除く)の重ね張りを行う場合
※図示による　・
合板類の張付け
⊙A種　・B種　・
せっこうボードの目地工法等
目地工法の種類
※図示による　・継目処理工法　・突付け工法　・目透し工法
突付け工法及び目透し工法のエッジの種類
・ベベルエッジ　・スクエアエッジ
化粧加工の方法（・オーバーレイ　・プリント　・塗装　・　）

⊙壁紙張り

ホルムアルデヒド放散量　[6.14.2、3]
※F☆☆☆☆　・

施工箇所	壁紙の種類						防火性能	備考
	紙	織維	塩化ビニル	プラスチック	木質	その他		
つくりば壁	・	・	⊙	・	・	・	⊙不燃・準不燃・難燃	
	・	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	
	・	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	
	・	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	

モルタル及びプラスター面の素地ごしらえの種別
※B種　・A種
コンクリート面の素地ごしらえの種別
※B種　・A種
せっこうボード面及びその他のボード面の素地ごしらえの種別
※B種　・A種

⊙モルタル塗り

モルタル　[6.15.3、5、6]
・現場調合材料
⊙既調合材料
既製目地材
・設ける
施工箇所（　）　形状（※図示による　・　）
⊙設けない
床の目地
・設ける
目地割り
※2m程度（最大目地間隔3m程度）
・
目地の種類
※押し目地
・
・設けない
壁面の仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の下地処理
・図示による　・

⊙タイル張り

伸縮目地の位置　[6.16.2～4]
床タイル
※縦、横とも4m以内ごと
・図示による
・
床タイル以外
・図示による
・

伸縮調整目地のシーリング材、目地寸法は改修特記仕様書第3章による
見本焼き
・行う（施工箇所：　）　⊙行わない
試験張り
・行う（範囲、仕様等は図示による）　⊙行わない
・セメントモルタルによるタイル（セラミックタイル）張り
タイルの形状、寸法等

施工箇所		種類	形状/寸法 (mm)	再生材料の適用 G	吸水率による区分			うわぐすり		役物	色			耐凍害性		耐滑り性	備考
					Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	施ゆう	無ゆう	有	無	標準	特注	有	無		
外	構	床	100x200	・	・	⊙	・	・	⊙	・	⊙	⊙	・	⊙	・	⊙	LXL ﾊﾟﾃｨｰﾉ程度
				・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
				・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
・既調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
・既調合目地材
壁タイル張りの工法
内装タイル
・密着張り　・改良圧着張
内装タイル以外のユニットタイル
・マスク張り　・モザイクタイル張り
・有機系接着剤によるタイル（セラミックタイル）張り
タイルの形状、寸法等

施工箇所		種類	形状/寸法 (mm)	再生材料の適用 G	吸水率による区分			うわぐすり		役物	色			耐凍害性		耐滑り性	備考
					Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	施ゆう	無ゆう	有	無	標準	特注	有	無		
				・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
				・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
				・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
内装タイル接着剤張りの接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

・セルフレベリング材塗り

塗厚（mm）　[6.17.2、3]
・

7 塗装改修工事

⊙材料

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量　[7.1.3]
※F☆☆☆☆　・
防火材料
※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
・次の箇所を除き防火材料とする。（箇所：　）

⊙下地調整

塗替えRB種の場合の既存塗膜の除去範囲　[7.2.1～7]
※塗替え面積の30%
・図示による

既存錆止め塗料の鉛含有量調査
・行う（　箇所）
⊙行わない
下地調整

素地面の種類	下地調整の種別 塗替え	ひび割れ部の補修
木部	※RB種　・	―
鉄鋼面	※RB種　・	―
亜鉛めっき鋼面	※RB種　・	―
亜鉛めっき鋼面（鋼製建具等）	※RB種　・	―
モルタル、プラスター面	※RB種　・	⊙行う ・行わない
コンクリート面(DP以外)、ALCパネル面	※RB種　・	⊙行う ・行わない
押出成形セメント板面	・RA種　・RB種 ・RC種	・行う ・行わない
コンクリート面（DP）	・RB種　・RC種	⊙行う ・行わない
せっこうボード面及びその他ボード面	※RB種　・	―

⊙素地ごしらえ

(7.3.2～7)

素地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種　・B種
	透明塗料塗りの場合	※B種　・A種
鉄鋼面（DP以外）		※C種　・A種　・B種
鉄鋼面（DP）		※B種　・A種　・C種
亜鉛めっき鋼面		・A種　・B種
モルタル面及びプラスター面		※B種　・A種
コンクリート面（DP以外）及びALCパネル面		※B種　・A種
押出成形セメント板面		※B種　・A種
コンクリート面（DPのみ）		※A種　・B種
せっこうボード面及びその他ボード面	目地：縦目処理工法	※A種　・B種
	目地：縦目処理工法以外	※B種　・A種

・錆止め塗料塗り

錆止め塗料塗りの種別　[7.4.2、3]

素地面	塗装の種類		錆止め塗料塗りの種別	錆止め塗料の種別
鉄鋼面	SOP（工程の種別は表7.4.3）	塗替え	※C種　・	A種
		新規見え掛り	※A種　・	A種
		新規見え隠れ	※B種　・	A種
	EP-G（工程の種別は表7.4.3）	塗替え	※C種　・	※B種　・A種
		新規見え掛り	※A種　・	※B種　・A種
		新規見え隠れ	※B種　・	※B種　・A種
	DP（工程の種別は表7.4.4）	塗替え	※B種　・	7.4.2(1)(イ)(b)による
		新規	※A種　・	7.4.2(1)(イ)(a)による
亜鉛めっき鋼面	SOP（工程の種別は表7.4.5）	塗替え	※C種　・	※A種　・B種
		新規　鋼製建具等	※A種　・	※A種　・B種
		新規　その他	※B種 ・A種　・C種	塗りB種の場合 B種 塗りA種又はC種の場合 ※A種　・B種
	EP-G（工程の種別は表7.4.5）	塗替え	※C種　・	C種
		新規　鋼製建具等	※A種　・	C種
		新規　その他	※B種　・	C種
	DP（工程の種別は表7.4.6）	塗替え	改修標準仕様書表7.4.6による	B種
		新規	改修標準仕様書表7.4.6による	B種

⊙塗装

[7.5.2～7.12.2]

塗装の種類	塗装面	工程 塗替え	工程 新規
⊙合成樹脂調合ペイント塗り(SOP) 塗装の種類 ※1種 ・2種	木部屋外	※B種　・	※A種　・
	木部屋内	※B種　・	※B種　・
	鉄鋼面	※B種　・	※B種　・A種
	亜鉛めっき鋼面（鋼製建具）	※A種　・	※B種　・
	亜鉛めっき鋼面（鋼製建具以外）	※B種　・	※B種　・
⊙クリヤラッカー塗り(CL)		※B種 ・A種 （着色塗料の種類：　）	※B種 ・A種 （着色塗料の種類：　）
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)		※B種　・A種	※B種　・A種
⊙耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面 上塗り等級（　3　）級	改修標準仕様書7.8.2による	改修標準仕様書7.8.2による
	亜鉛めっき鋼面 上塗り等級（　）級	改修標準仕様書7.8.3による	改修標準仕様書7.8.3による
	コンクリート面及び押出成形セメント板面	・	・A-1種 ・B-1種 ・C-1種
・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G)	コンクリート面等	※B種　・	・A種　・B種
	屋内の木部	※B種　・	※A種　・
	屋内の鉄鋼面	※B種　・	・A種　・B種
	屋内の亜鉛めっき鋼面	※B種　・	・A種　・B種
⊙合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)		※B種　・	・A種　・B種
・合成樹脂エマルション模様塗料塗り(EP-T)		※B種　・	・A種　・B種
・ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)		※B種　・	※B種　・A種
・ステイン塗り		・ピグメントステイン塗り ・オイルステイン塗り(OS)	
・木材保護塗料塗り(WP)		※B種　・A種	※B種　・A種

つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（ｺﾝｸﾘｰﾄ面、ﾓﾙﾀﾙ面、ﾌﾟﾗｽﾀｰ面、せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面、その他ﾎﾞｰﾄﾞ面）の塗替えの場合のしみ止め
※改修標準仕様書表7.9.1の工程1の下塗りをしみ止めシーラーとする
・
合成樹脂エマルションペイント塗りの塗替えの場合のしみ止め
※改修標準仕様書表7.10.1の工程1の下塗りをしみ止めシーラーとする
・
・高日射反射率塗料塗り G
下地調整（改修標準仕様書表7.2.2）
※RB種　・RA種　・RC種

工程	塗料その他 規格番号	規格名称	種類	等級	塗付け量 (kg/㎡)
	JIS K 5675	屋根用高日射反射率塗料	2種	・1級 ・2級 ・3級	塗料製造所の仕様による

クリヤラッカー塗りA種の工程2の適用
・適用しない
・適用する(着色剤：・溶剤系着色剤　・油性染料着色剤)
ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の適用
・適用する
・適用しない
オイルステン塗りの工程等
・
⊙コンクリート打放し面クリア樹脂塗装：セラミクリートSi工法同等

8 耐震改修工事

改修特記仕様書 構造関係 による
8章 耐震改修工事

9 環境配慮改修工事

⊙石綿含有建材の調査

⊙石綿含有建材の除去工事

1章 石綿含有建材の調査による

・石綿粉じん濃度測定　[9.1.1、3～6]
測定時期、場所及び測定点

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定箇所数（各施工箇所ごと）
・	測定 1	処理作業前	処理作業室内	・計　点
・	測定 2		調査対象室外部の付近	・計　点
・	測定 3	処理作業中	処理作業室内	・計　点
・	測定 4		セキュリティーゾーン入口	・計　点
・	測定 5		集じん・排気装置の排出口（処理作業室外の場合）	出口吹出し風速1m/s以下の位置 ・計　点
・	測定 6		処理作業室内 ・施工区画周辺 ・敷地境界	・計　点
・	測定 7	処理作業後（シート養生中）	処理作業室内	・計　点
・	測定 8	処理作業後（シート撤去後1週間以降）	処理作業室内	・計　点
・	測定 9		調査対象室外部の付近	・計　点

測定方法
・自動測定器による測定

測定名称	測定方法
・測定 4 ・測定 5	粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器(リアルタイムファイバーモニター)等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定

・JIS K 3850-1に基づいた測定

測定名称	メンブレンフィルタ直径(mm)	試料の吸引流量 (L/min)	試料の吸引時間 (min)
・測定 4 ・ ・測定 5	25	5	30
・測定 ・	47	10	120
・測定 ・	47	10	240
・測定 ・			

石綿含有建材の処理
・石綿含有吹付け材の除去
除去対象範囲
・図示による　・
除去工法
※改修標準仕様書9.1.3（2）(ｱ)による
・
除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置
※湿潤化　・固形化
除去した石綿含有吹付け材等の処分
・埋立処分（管理型最終処分場）
・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）
・石綿含有保温材等の除去
除去対象範囲
・図示による　・
除去工法
・破砕して除去　・手ばらし
除去した石綿含有保温材等の飛散防止
※湿潤化　・固形化
除去した石綿含有保温材等の処分
・埋立処分（管理型最終処分場）
・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）
⊙石綿含有成形板（石綿含有けい酸カルシウム板第1種以外）の除去
除去対象範囲
⊙図示による　・
除去した石綿含有成形板の処分
・石綿含有せっこうボード
※埋立処分（管理型最終処分場）
⊙石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板
・埋立処分（安定型最終処分場）
⊙中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）
・石綿含有成形板（石綿含有けい酸カルシウム板第1種）の除去
除去対象範囲
・図示による　・
養生方法
・図示による　・
足場
・図示による　・
除去した石綿含有けい酸カルシウム板第1種の処分
・埋立処分（安定型最終処分場）
・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）
・
・石綿含有仕上塗材又は石綿含有成形板（下地調整材）の除去
除去対象範囲
・図示による　・
除去工法
・
養生方法
・
除去した石綿含有仕上塗材の処分
・埋立処分（安定型最終処分場）
・埋立処分（管理型最終処分場）
・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）
石綿含有建材除去後の仕上げ工事
・図示による　・

・断熱アスファルト防水改修工事

改修特記仕様書3章による。　[9.2.2～3]

(参考図)

業務名	工事名	令和 7年 7月	奈良国立大学機構 機構施設課	課長補佐	図面番号
奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事設計業務（建築）	奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事	縮尺 A1 － A3 －			特-07
Hiroyuki Takahara & Associates Design Office Inc. 株式会社HTAデザイン事務所 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第20902号	図面名称 特記仕様書-7				

・外断熱改修工事 G

断熱材 [9.2.1～4]
断熱材の種類
・
断熱材の厚さ(mm)
・
施工箇所
・図示による ・
ホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・
外装材

種類	防火性能	備考
・		

鋼材
改修特記仕様書第8章 8-3 鉄骨工事 ・鋼材による。
笠木
改修特記仕様書第3章 ・アルミニウム製笠木による。
既存外壁の処置
既存外壁仕上材の撤去
・行う ・行わない
下地面の清掃
・行う ・行わない
欠損部の改修工法
・改修特記仕様書第4章 外壁改修工事による
・
工法
1章 適用区分による風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
不陸等の下地調整
・
断熱材の施工
・断熱材製造所の仕様による
・
外装材の施工
・外装材製造所の仕様による
・
通気層の有無
・有（ mm） ・無
外装材の外壁への取付け
・図示による ・
笠木の施工
・改修特記仕様書第3章 アルミニウム製笠木による
・

・断熱・防露改修工事 G

フェノールフォーム断熱材又は保温材、接着剤のホルムアルデヒド放散量 [9.3.2～4]
※F☆☆☆☆ ・
開口部等補修のための張付け用の接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・
工法
・断熱材打込み工法
断熱材 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材
種類 ・
厚さ(mm) ・
施工場所 ・
・断熱材現場発泡工法
断熱材の種類
・A種1 ・A種1H ・
吹付け厚さ（mm）
・25 ・30 ・
施工箇所
・図示による ・
・断熱材後張り工法
断熱材 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材
種類 ・
厚さ(mm) ・
・断熱材にせっこうボード等を張り付けたパネル
材質 ・
厚さ ・ (mm)
・張り付け工法
断熱材の張り付け工法 ・
断熱材へのボードの張付け工法 ・

屋上緑化改修工事 G

植栽基盤及び材料 [9.4.2～4]
・屋上緑化軽量システム
芝及び地被類の種類等
※図示による ・
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等
※図示による ・
工法
1章 適用区分による風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力対応した工法
かん水装置
・設置する（種類・ ）
既存保護層の撤去
・行う ・行わない
新植した芝及び地被類の枯補償の期間
※引渡しの日から1年
・

・透水性アスファルト舗装改修工事

適用範囲：歩道 [9.5.2～5、9]
既存舗装の撤去及び再利用
※図示による ・
路床
路床の材料

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 G	・図示による ・
・凍上抑制層	・再生クラッシャラン G ・クラッシャラン ・切込み砂利 ・砂 ・	・図示による ・
・フィルター層	・砂 ・	・図示による ・

（凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験）
・行う ・行わない
・路床安定処理
・適用する ・適用しない
安定処理の方法
・置き換え工法
・安定処理工法
路床安定処理用添加材料
種類
・普通ポルトランドセメント
・高炉セメントB種 G
・フライアッシュセメントB種 G
・生石灰（・特号 ・1号）
・消石灰（・特号 ・1号）
添加量
・ kg/m53 （目標CBR ・3以上 ・ ）
目標CBRを満足する添加量の確認方法
・安定処理土のCBR試験
・
・ジオテキスタイル
単位面積質量
・60g/㎡以上 ・
厚さ(mm)
・0.5～1.0 ・
引張強さ
・98N/5cm（10kgf/5cm）以上 ・
透水係数
・1.5×10^{-1} cm/sec以上 ・
試験
路床土の支持力比（CBR）試験
・行う ・行わない
路床締固め度の試験
・行う ・行わない
現場CBR試験
・行う ・行わない
路盤
路盤の厚さ
・図示による ・
路盤材料（改修標準仕様書表9.7.3による種別）
・クラッシャラン
・粒度調整砕石
・再生クラッシャラン G
・再生粒度調整砕石 G
・クラッシャラン鉄鋼スラグ G
・粒度調整鉄鋼スラグ G
・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ G
舗装の構成
・図示による ・
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験
・行う ・行わない
舗装の平たん性
※著しい不陸がないもの
・

10 プール改修工事

・ひび割れ及び欠陥等の補修

下地処理 [[1.2.3]]
・

・ライニング工法

下地調整 [[1.3.2～4]]
※RA種 ・

材料
ライニング用材料
・
ライニング用材料の材質
・ガラスクロス ・ガラスマット
防滑性材料
※鋭利な角部のない微細砕砂 ・

施工
・ガラスクロスライニング工法
種別
・

・プール塗装塗り替え工法

下地調整 [[1.4.2～4]]
※RA種 ・

材料
塗り替え用材料
・
防滑性材料
※鋭利な角部のない微細砕砂 ・

施工
種別
・

(参考図)

業務名	工事名	令和 7年 7月	課長補佐	図面番号
奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事設計業務（建築）	奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事	縮尺 A1 － A3 －	奈良国立大学機構 機構施設課	特-08
Hiroyuki Takahara & Associates Design Office Inc. 株式会社HTAデザイン事務所 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第20902号	図面名称 特記仕様書-8			

21 排水工事

⊙屋外雨水排水

材料 (21.2.1、2)(表 21.2.1、2)

材種	種類・記号	形状	呼び径	備考
・遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管（1種）	・B形管 ・	・図示による ・	
⊙硬質ポリ塩化ビニル管	・RF-VP G		・図示による ・	
	・RS-VU G		・図示による ・	
	⊙VP		⊙図示による ・	
	・VU		・図示による ・	

基床の厚さ及び種類
・図示による　・
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料
※接着剤　・
側塊の形状及び寸法
・図示による　・
排水桝の種類
・図示による　・
砂地業に用いる材料
・シルト　⊙山砂　・川砂　・砕砂
砂利地業に用いる材料
⊙再生クラッシャラン G
・切込砂利又は切込砕石
・現場打ちの場合のコンクリート材料
設計基準強度(N/mm2)
※18　・
スランプ(cm)
※15又は18　・
・現場打ちの場合の鉄筋
種類の記号
※SD295　・
・排水桝が現場打ちの場合の足掛け金物
※標準仕様書21.2.2(6)(オ)
材質
・ステンレス製
・鋼製
・合成樹脂被覆加工されたもの
凍上抑制層に用いる材料
・
（砂を用いる場合の粒度試験）
・行う　⊙行わない

・鋳鉄製ふた

(21.2.1)

名称	種類	適用荷重	鍵	備考
鋳鉄製マンホールふた	・水封形 ・簡易密閉形（ﾊﾟｯｷﾝ式） ・密閉形（ﾃｰﾊﾟ・ﾊﾟｯｷﾝ式） ・中ふた付き密閉形（ﾃｰﾊﾟ・ﾊﾟｯｷﾝ式） ・	・T-2用 ・T-6用 ・T-20用	・有り ・無し	左記以外の品質等は（公社）空気調和衛生工学会SHASE-S209による。

⊙グレーチング

(21.2.1)

材質	形式	用途	適用荷重	メインバーピッチ	亜鉛めっき（付着量）	上面形状
・鋼製	・受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ・桝ふた ・U字溝用	・歩行用	・細目 ・	・ （　）	・凹凸形 ・
			・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・普通目 ・細目	・ （　）	・平形 ・
⊙ｽﾃﾝﾚｽ製	⊙受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた（横断用） ⊙溝ふた（側溝用） ・桝ふた ・U字溝用	⊙歩行用	⊙細目	－	⊙凹凸形 ・
			・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・細目	－	・平形 ・

⊙街きょ、縁石及び側溝

街きょ、縁石、側溝 (21.3.1、2)(表21.3.1)

種類	形状・寸法
⊙縁石	⊙図示による　・
・L形側溝	・図示による　・
・U形側溝	・図示による　・
・U形側溝ふた	・図示による　・
・	・図示による　・

砂地業に用いる材料
・シルト　⊙山砂　・川砂　・砕砂
砂利地業に用いる材料
⊙再生クラッシャラン G　・切込砂利又は切込砕石
砂利地業の厚さ（mm）
※100　⊙図示による
⊙現場打ちの場合のコンクリート材料
設計基準強度（N/mm52）
※18　・
スランプ（cm）
※15又は18　・
⊙現場打ちの場合の鉄筋
種類の記号
※SD295
凍上抑制層に用いる材料
・
（砂を用いる場合の粒度試験）
・行う　・行わない

⊙埋戻し土

※B種　・ (21.2.1)

22 舗装工事

⊙路床

路床の材料 (22.2.2、3、5)(表22.2.1)

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・A種　・B種　・C種　・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 G	・図示による ・
・凍上抑制層	・再生クラッシャラン G ・クラッシャラン ・切込み砂利 ・砂	・図示による ・
・フィルター層	※砂 ・	・図示による ・

（凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験 ）
・行う
・行わない
・路床安定処理
安定処理の方法
・置き換え工法
・安定処理工法
路床安定化処理用添加材料
種類
・普通ポルトランドセメント
・高炉セメントB種 G
・フライアッシュセメントB種 G
・生石灰（・特号　・1号）
・消石灰（・特号　・1号）
添加量
・　kg/m53（CBR　・3以上　・　）
・ジオテキスタイル
単位面積質量
・60g/㎡以上　・
厚さ(mm)
・0.5～1.0　・
引張強さ
・98N/5cm（10kgf/5cm）以上　・
透水係数
・1.5×10^{-1}cm/sec以上　・
試験
路床土の支持力比（CBR）試験
・行う　・行わない
路床締固め度の試験
・行う　・行わない
現場CBR試験
・行う　・行わない

・路盤

路盤の厚さ (22.3.2、3)(表 22.3.1)
・図示による　・
路盤材料（標準仕様書表22.3.1による種別）
・クラッシャラン
・粒度調整砕石
・再生クラッシャラン G
・再生粒度調整砕石 G
・クラッシャラン鉄鋼スラグ G
・粒度調整鉄鋼スラグ G
・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ G

・アスファルト舗装

アスファルト舗装の構成及び厚さ (22.4.2～6)(表 22.4.4)
※図示による　・
材料
アスファルト
・再生アスファルト G
（標準仕様書22.4.1による種類：・60～80　・80～100）
・ストレートアスファルト
骨材
・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材 G
加熱アスファルト混合物等の種類
・密粒度アスファルト混合物(13)
・細粒度アスファルト混合物(13)
・密粒度アスファルト混合物(13F)
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度
・
試験
アスファルト混合物等の抽出試験
・行う
・行わない

⊙コンクリート舗装

コンクリート舗装の構成及び厚さ (22.5.2～4、6)(表22.5.1、3)

舗装の種類	部位	構成	厚さ(mm)
コンクリート舗装	車路及び駐車場	⊙図示による	⊙図示による　・
	歩行者用通路	・図示による	※70　・

材料
コンクリート
※普通コンクリート、標準仕様書表22.5.1による
・以下による
コンクリートの種類　（　）
設計基準強度（N/mm52）　（　）
所定のスランプ（cm）　（※8　・　）
粗骨材の最大寸法（mm）　（　）
早強ポルトランドセメント
・使用する　・使用しない
注入目地材料
※低弾性タイプ
・高弾性タイプ
目地
※標準仕様書表22.5.3及び図22.5.1による
・以下による
種類　・
間隔　・（　）m程度ごと
構造　・図示による
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

・カラー舗装

・加熱系カラー舗装 (22.6.2～4)
構成・厚さ
・図示による　・
加熱系混合物の結合材
・アスファルト混合物
・石油樹脂系混合物　顔料の添加量（　%）
添加材
着色骨材（　）
自然石　（　）
・常温系カラー舗装
工法
・ニート工法（配合その他：　）
・塗布工法　（配合その他：　）
着色部の下部
・アスファルト舗装
・コンクリート舗装
・
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

・透水性アスファルト舗装

舗装の構成 (22.7.2、3、6)
・図示による　・
材料
骨材
・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材 G
（標準仕様書表22.4.1による種類：・60～80　・80～100）
舗装の平たん性
※著しい不陸がないもの
試験
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験
・行う
・行わない

⊙ブロック系舗装

・コンクリート平板舗装 G (22.8.2、3)

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考
・普通平板(N) ・透水平板(P) ・保水性平板(M)	・300角 ・	※60 ・	※砂 ・ﾓﾙﾀﾙ	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し

クッション材
※砂　・空練りモルタル
普通平板は G 再生材1料を用いた舗装用ブロック)、透水平板は G 水性コンクリート）とする。
仕上り面の平たん性
※歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内とする。
・

⊙インターロッキングブロック舗装 G

種類	部位	形状寸法	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm52)	備考
※普通ブロック(N) ・透水性ブロック(P) ・保水性ブロック(M)	車路	・図示による ・	※80 ・	※5.0 ・	表面加工 ・
※普通ブロック(N) ・透水性ブロック(P) ・保水性ブロック(M)	歩行者用通路	・図示による ⊙300角	※60 ・	※3.0 ・	

クッション材
※砂　・空練りモルタル
歩行者用通路に使用する普通ブロックは G 再生材料を用いた舗装用ブロック)、透水性ブロックは G（透水性コンクリート）とする。
仕上り面の平たん性
※歩行に支障となる段差がないものとし、ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ間の段差は3mm以内とする。
・

・舗石舗装

種類	形状・寸法（mm）	厚さ(mm)	張り方	基層	基層の厚さ（mm）
・花こう岩 ・	・割石 ・図示による ・	・	・	・ｺﾝｸﾘｰﾄ版	※70 ・
				・アスファルト混合物	※70 ・

クッション材
※砂　・空練りモルタル
仕上り面の平たん性
※歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm以内とする。
・

・ジオテキスタイル
単位面積質量
・60g/㎡以上　・
厚さ(mm)
・0.5～1.0　・
引張強さ
・98N/5cm(10kgf/5cm)以上　・
透水係数
・1.5×10^{-1}cm/sec以上　・

・砂利敷き

種別 (22.9.2)
・A種（施工範囲：　・図示による　・通路　・　）
・B種（施工範囲：　・図示による　・建物周囲その他　・　）

・路面標示用塗料

路面標示用塗料はJIS K 5665による。

種類	施工	適用	色	幅（mm）	塗布厚さ(mm)
※3種1号	溶融	粉体状	・白 ・	・150 ・100	・1.0 ・
・1種 G	常温	液状			
・2種 G	加熱				

低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料 G

（参考図）

業務名	奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事設計業務（建築）
Hiroyuki Takahara & Associates Design Office Inc. 株式会社HTAデザイン事務所 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第20902号	
工事名	奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事
図面名称	特記仕様書-9
令和 7年 7月	
縮尺	A1　－ A3　－
奈良国立大学機構 機構施設課	
課長補佐	
図面番号	特-09

工事区分表

1．●印の付いたものを適用する。
2．●が重複する項目は、それぞれの区分が必要とする工事を自ら行う。

項目 名称	項目 摘要	区分 建築	区分 電気	区分 機械	区分 土木	備考
コンクリート穴あけ	梁、壁木製型枠入	●				
〃	壁スリーブ入れ		●	●		鉄筋探査含む
〃	床スラブ木製型枠入					
〃	床スラブスリーブ入れ		●	●		鉄筋探査含む
同上開口部補強	鉄筋切断及び補強筋入れ	●				
配管ダクト類の防水貫通部補修		●	●	●		
ＡＬＣパネルの穴あけ、補修	ダクト等の貫通部			●		
ＰＣ版の穴あけ	スリーブ入れ	●				
同上補修		●	●	●		
インサート	ＰＣ版	●				
インサート	コンクリート床	●	●	●		
天井点検口	点検口取付及び、開口部補強	●				天井切込、墨出し共
軽量鉄骨下地開口部墨出し	電気設備関係開口部		●			
〃	機械設備関係開口部			●		
軽量鉄骨下地開口部補強	天井及び壁、ボード切開	●				
開口補強を必要としないボード等の切開		●	●	●		天井切込、墨出し共
特殊仕上材の天井、壁、床に取付ける器具等の穴あけ加工		●				
盤等重量物の下地補強	露出形器具取付用	●				
床点検口	点検口取付及び、開口部補強	●	●	●		
防火区画貫通部補修		●	●	●		モルタル充填等
機器・配管取付後の壁、床等の補修		●	●	●		
流し台、ミニキッチン本体、水切	ステンレス製（含む排水金具）			●		
同上用配管接続	給排水用			●		
流し台	陶器製			●		
洗面器等取付化粧板				●		
ルーフドレン		●				
竪樋	防露工事共	●				
雨水排水管	第１桝から排水幹線までの配管	●				
〃	幹線の配管	●				
生活排水、実験排水管	建物及び第１桝までの配管			●		
〃	第１桝から排水幹線までの配管			●		
〃	幹線の配管			●		
大型機械基礎		●				
同上基礎上鉄骨架台			●	●		
機器用アンカーボルト	ボイラ等機械設備関係機器			●		
〃	自家発電機等電気設備関係機器		●			
一般機器類の基礎	仕上げ共	●				
屋外自立盤の基礎	仕上げ共	●				
屋外貯油槽	地下式			●		
共同溝	歩床コンクリート	●				
建物、共同溝接続トレンチ		●				
同上接続部止水板		●				
各種槽類	コンクリート製	●				
〃	ＳＵＳ、ＦＲＰ、鋼製			●		
〃	屋外大型のものの基礎	●				
〃	屋上設置のものの基礎	●				
換気扇取付	ダクトのあるもの			●		
〃	壁、サッシ等への取付（材共）			●		
同上用スイッチ			●			
同上用電源配線			●			
同上用枠、取付板等	木製、アルミ製、鉄製			●		
全熱交換器				●		
同上用スイッチ				●		
外壁取付ガラリ	給排気用	●				
内壁取付ガラリ		●				
ガラリへの給排気ダクト接続				●		
煙感知器連動防火戸		●				
同上用レリーズ	配管配線、ボックス共		●			
同上用煙感知器	リレー及びリレーまでの配管配線共		●			
排煙防火ダンパー	リレー取付まで①			●		
煙感知器連動シャッター	リレー取付まで②	●				
煙感知器連動防煙垂れ壁	リレー取付まで③	●				
上記①～③用煙感知器	リレーまでの配管配線共		●			

項目 名称	項目 摘要	区分 建築	区分 電気	区分 機械	区分 土木	備考
道路側溝用排水	Ｌ型・Ｕ型と管敷設	●				
制御盤	制御盤以降の配管、配線共		●			
同上用電源配線	１次側接続まで		●			
屋内消火栓	消火ポンプ、制御盤			●		
屋内消火栓起動リレー			●			
同上表示灯及び起動装置			●			
自動火災報知器			●			
連結送水口	座板共			●		
独立煙突		●				
同上煙道	鋼板製			●		
同上雷保護設備			●			
配管配線用ピット		●				
盤、配管、ダクト、配線用の二重床開口	フリーアクセスフロア等		●			
コンクリートシャフト点検口		●				
天井フック		●				
機械室、電気室の防音遮音処理		●				
特殊サイズ鏡		●				
化粧用洗面器、鏡	化粧カウンターは除く			●		
雷保護設備			●			
保守管理用タラップ、はしご		●				
室内テレビ用吊金物		●				
テレビアンテナ	取付共		●			
同上用基礎		●				
グリストラップ及び	コンクリート製			●		
ガソリントラップ	ステンレス鋼板製			●		
電動シャッターの配管配線	二次側、操作盤、押釦取付共		●			
同上用電源配線	一次側接続まで		●			
自動扉の配管配線	二次側		●			
同上用電源配線	一次側接続まで		●			
電気錠操作盤	端取装置共		●			
同上配管配線			●			
電気錠	配管配線、接続ボックスまで		●			
同上配管配線	操作盤～接続ボックスまで		●			
中央監視装置本体	関係機器、関係機器間配線を含む					
同上用電源配線	一次側接続まで					
同上用信号線	各メーター=から装置まで					
ユニットバス本体	据付共	●				
同上用電源配線	一次側接続まで。ＳＷの取付配線共			●		
同上用配管	接続まで		●			
冷蔵、冷凍、恒湿恒温、シールド、防音、無響室等の内装	現場製作	●				
同上用電源配線	一次側接続まで		●			
同上用照明・コンセント	電源配管配線、接続ボックス共		●			
同上用配管	接続まで			●		
冷蔵、冷凍、恒湿恒温、シールド、防音、無響室等の内装	プレハブ型	●				
同上用電源配線	一次側接続まで		●			
同上用照明・コンセント	電源配管配線、接続ボックス共		●			
同上用配管	接続まで			●		
芝生、種子吹付け		●				
法枠、モルタル吹付け		●				
コンクリート擁壁		●				
植栽		●				

項目 名称	項目 摘要	区分 建築	区分 電気	区分 機械	区分 昇降機	備考
昇降機関連 昇降機設備本体	三方枠、同取付後の壁補修まで（トロ詰め）				●	
同上用機械室	天井フック、床シンダーコンクリート、防塵塗料、搬入用等開口、換気ガラリ共	●			●	
同上用監視盤					●	
同上換気扇取付					●	
機械室換気扇取付	サーモ、スイッチ共					
各種信号用制御線	停電用、火災用等				●	
三方枠周囲の壁仕上		●				
各階出入口用開口	敷居取付持出し共				●	
昇降路内中間ビーム設置					●	
ピット内防水		●				
動力、照明要電源、接地引き込み			●		●	
コンセント設置	ピット内、機械室内		●			
インターホン配線	シャフト外、監視盤～制御盤		●			
	シャフト内、制御盤内接続共				●	
煙感知器			●			
同上用配線	シャフト外、ＡＭＰ～制御盤		●			
	シャフト内、制御盤内接続共		●			
監視カメラ					●	
同上用配線	シャフト外、監視制御装置～制御盤				●	
	シャフト内、制御盤内接続共				●	
点検用タラップ	ピット内				●	

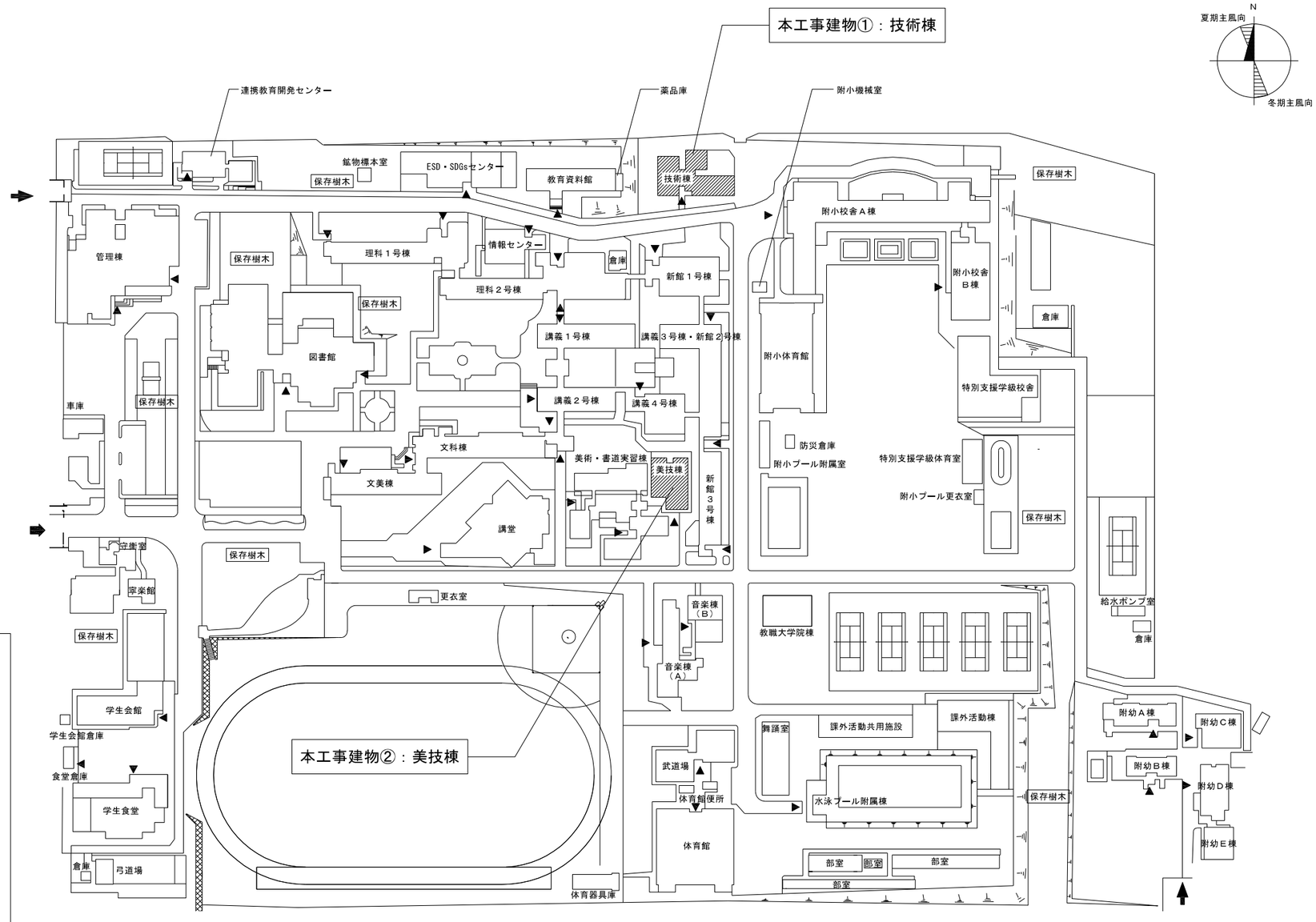
※昇降機は別途工事（建築）とする。

項目	区分 建築	区分 電気	区分 機械	区分 エスカレーター	備考
エスカレーター設備 搬入口、据え付け用穴明け、同復旧					
フレーム受け用枠					
吊込穴、フック、復旧工事					
転落防止柵、網、仕切り板					
三角ガード					
天井目地、床、回り仕上げ					
スプリンクラー等					
防火シャッター					
床部照明工事					
下部機械室耐火構造及び防水工事					
機械室受電盤までの動力線、電灯線、接地線の配管配線					
点検用電源の機械室までの引き込み配管配線					
シャッター及びエスカレーター電気インターロック用接点の供給及び配管配線工事（必要な場合）					
監視盤との信号用配管配線工事					

項目	区分 建築	区分 電気	区分 機械	区分 クレーン	備考
クレーン設備 走行レール、ストッパー					
クレーン点検台及びはしご					
走行用給電装置					
電気工事（電源盤以降２次側）					

（参考図）

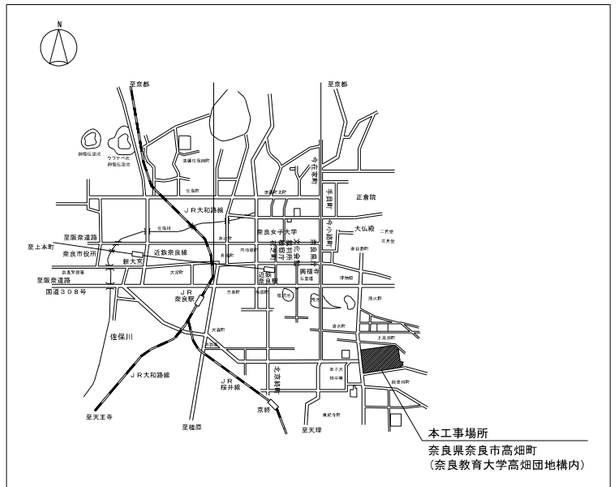
業務名 奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事設計業務（建築）	Hiroyuki Takahara & Associates Design Office Inc. 株式会社HTAデザイン事務所 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第20902号	工事名 奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事	令和 7年 7月	奈良国立大学機構 機構施設課	課長補佐
		図面名称 特記仕様書(工事区分表)	縮尺 A1 － A3 －		図面番号 特－10



配　置　図　（高畑団地）S=1,000

凡　例

工事範囲

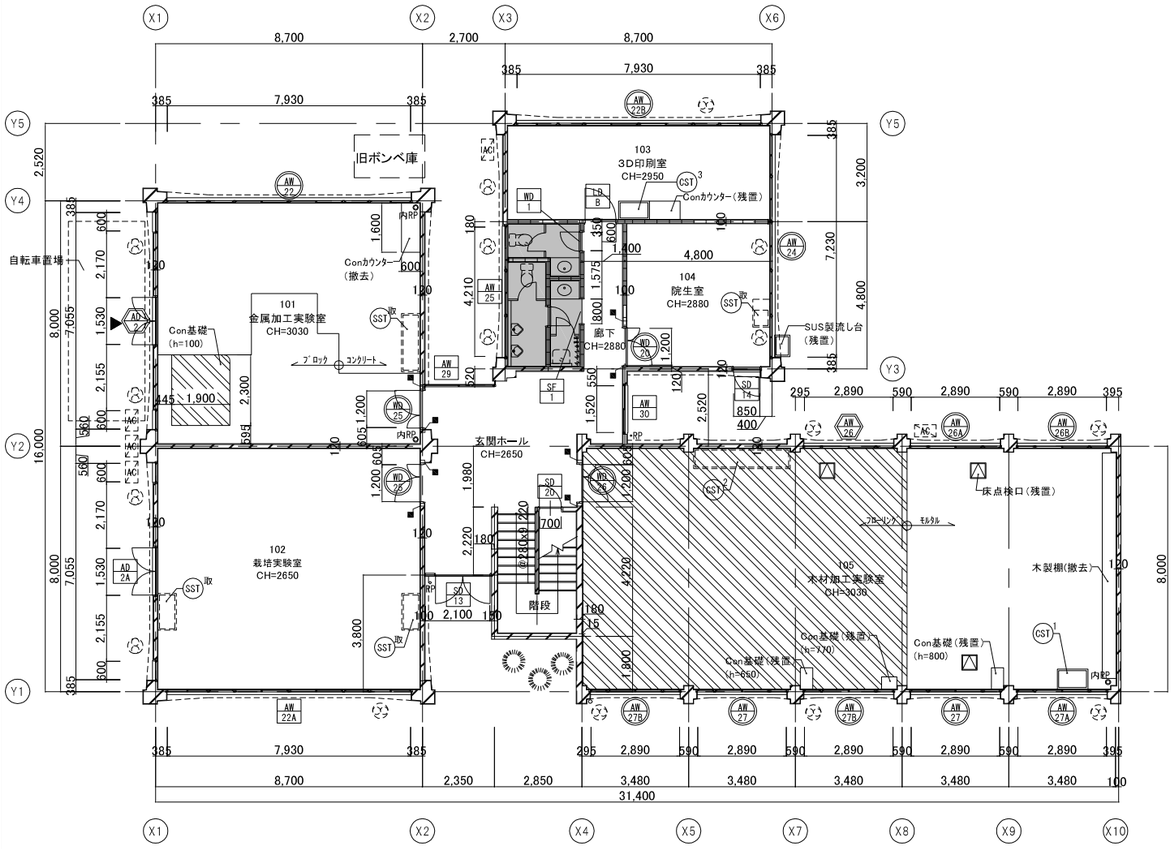


市街案内図

(参考図)

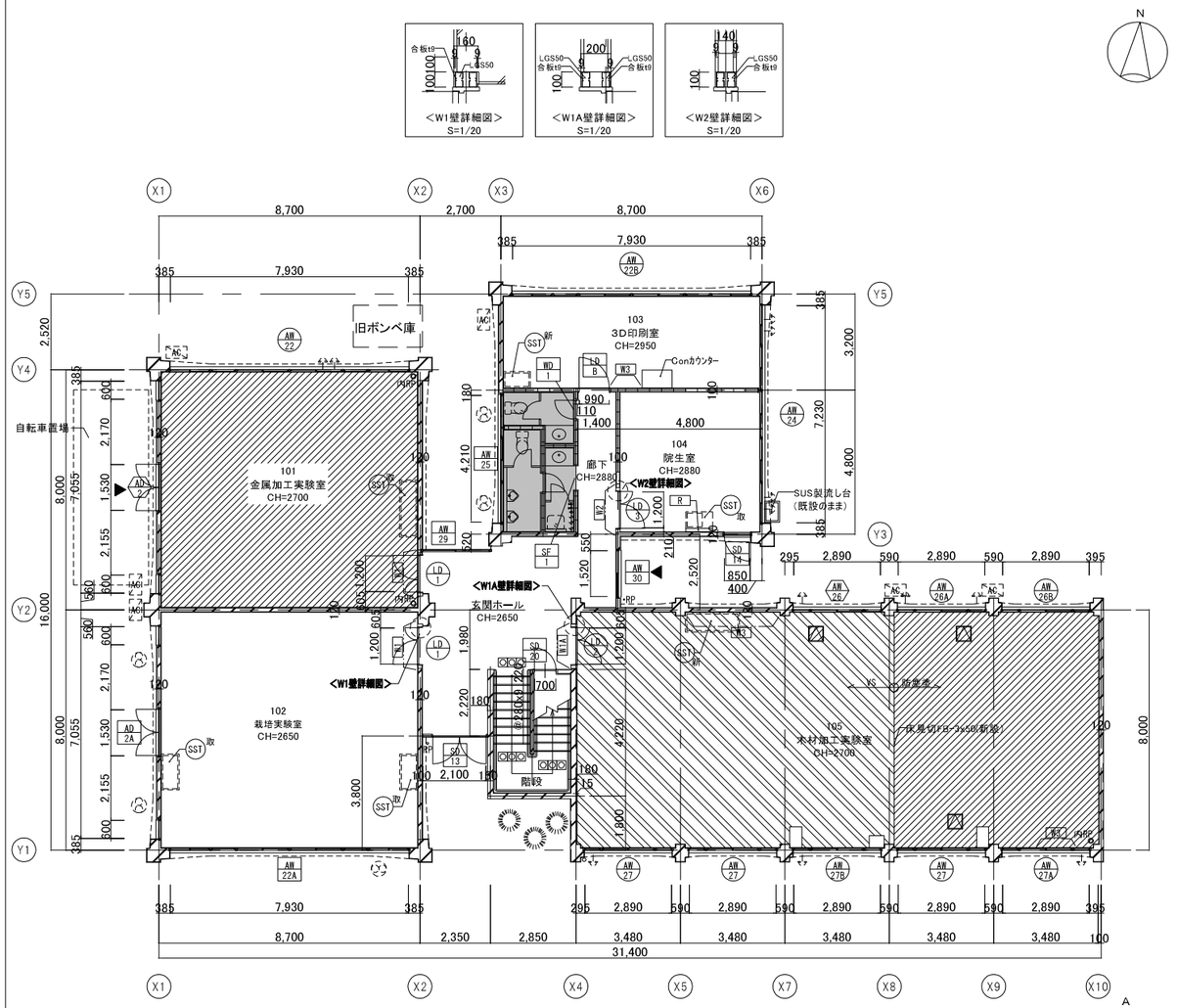
業務名	工事名	縮尺	課長補佐	図面番号
奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事設計業務（建築）	奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事	令和 7年 7月		A-01
Hiroyuki Takahara & Associates Design Office Inc. 株式会社HTAデザイン事務所 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第20902号	図面名称 案内図・配置図	A1 1/1000 A3 1/2000	奈良国立大学機構 機構施設課	

既設

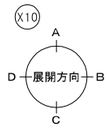


1階平面図　S=1/100

改修後



1階平面図　S=1/100



凡例

記号	内容
	工事対象外を示す
	鉄筋コンクリート壁を示す
	コンクリートブロック壁を示す
	軽量鉄骨間仕切壁を示す
R	鉄筋コンクリート壁撤去を示す モルタル塗（t20）含む
CB	コンクリートブロック壁撤去を示す モルタル塗（t20）含む
LW	軽量鉄骨間仕切壁（LGS-65型）撤去を示す せっこうボードt=9.5+12.5両面張り
	床撤去（躯体共）を示す （躯体+仕上材+床下地材共撤去）
	床撤去（下地共）を示す （仕上材+床下地材撤去、躯体残置）
	床撤去（仕上げ材のみ）を示す （仕上材撤去、躯体+床下地材残置）

記号	内容
**	撤去建具　アルミ製建具（枠残置） 木・鋼・鋼製軽量建具（枠共）　を示す
**	撤去建具（扉及びガラス部分のみ）を示す
**	改修建具（撤去なし）を示す
RP	竪樋 掴み金物共
内RP	竪樋（防露巻）掴み金物共
室名札	12箇所【撤去】（1階：5箇所、2階：7箇所）
	誘導標識　1箇所【撤去】
	コンクリートカッター切を示す
	モルタルカッター切を示す

詳細番号凡例

記号	内容
CST 撤1	コンクリート流し台-1（撤去） 詳細図参照
CST 撤2	コンクリート流し台-2（撤去） 詳細図参照
CST 撤3	コンクリート流し台-3（撤去） ※カウンター部残置　詳細図参照
SST 撤収	ステンレス製流し台（取外・再取付） （別途設備工事）
SST 撤撤	ステンレス製流し台（撤去） （別途設備工事）
ST 撤収	陶器製流し台（取外・再取付） （別途設備工事）
ST 撤撤	陶器製流し台（撤去） （別途設備工事）

特記事項
- 各室仕上げ撤去内容は、仕上げ表による
- SUS製流し台、洗面器、ミニキッチンなどの衛生器具（配管含む）は別途設備工事とする
  （Con製流し台撤去は建築工事）
- 壁及び天井に設置されているものは別図参照のこと
- 図中の凡例及び記載事項に＜＞のある箇所は別途工事とする。

凡例

記号	内容
	工事対象外を示す
	鉄筋コンクリート壁を示す
	コンクリートブロック壁を示す
	軽量鉄骨間仕切壁を示す
	床新設（躯体共）を示す （躯体+仕上材+床下地材共新設）
	床新設（下地共）を示す （躯体既設の上、仕上材+床下地材新設）
	床新設（仕上げ材のみ）を示す （躯体+床下地材既設の上、仕上材新設）

記号	内容
**	撤去建具　アルミ製建具（枠既存、カバー工法） 木・鋼・鋼製軽量建具（枠共）　を示す
**	新設建具（扉及びガラス部分のみ）を示す
**	改修建具（新設なし）を示す 建具周囲及びガラス止めシーリング打替え、鋼製建具は塗装
RP	竪樋 掴み金物共　SOP塗替
内RP	竪樋（防露巻）掴み金物共　SOP塗替
室名札	12箇所【新設】（1階：5箇所、2階：7箇所）
	誘導標識　1箇所【新設】

詳細番号凡例

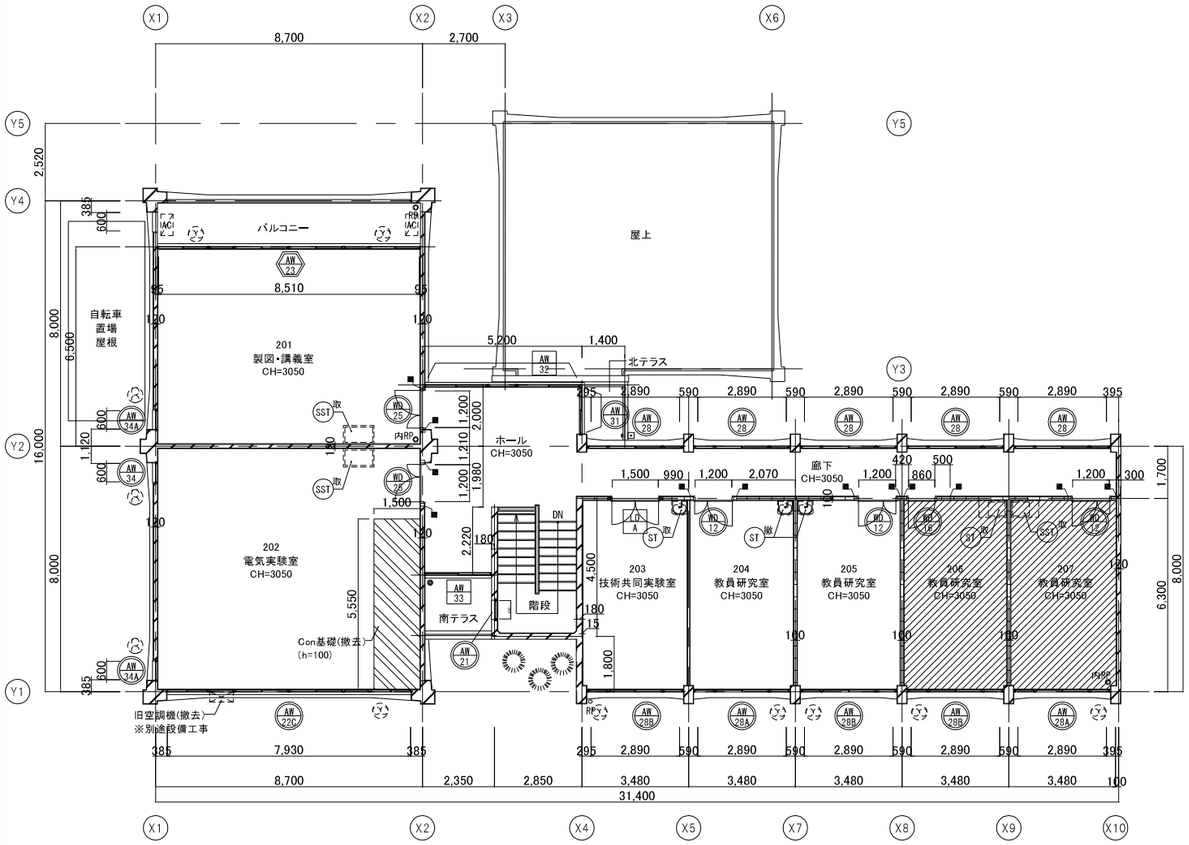
記号	内容
SST 撤収	ステンレス製流し台（取外・再取付） （別途設備工事）
SST 新新	ステンレス製流し台（新設） （別途設備工事）
ST 撤収	陶器製流し台（取外・再取付） （別途設備工事）
ST 新新	陶器製流し台（新設） （別途設備工事）
MK 新新	ミニキッチン（新設） （別途設備工事）

特記事項
- 各室仕上げ新設内容は、仕上げ表による
- SUS製流し台、洗面器、ミニキッチンなどの衛生器具（配管含む）は別途設備工事とする
  （ライニングは建築工事）
- 壁及び天井に設置されているものは別図参照のこと
- 図中の凡例及び記載事項に＜＞のある箇所は別途工事とする。

(参考図)

業務名 奈良教育大学（高畑）技術棟等 改修工事設計業務（建築）	Hiroyuki Takahara & Associates Design Office Inc. 株式会社HTAデザイン事務所 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第20902号	工事名 奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事	令和 7年 7月	奈良国立大学機構 機構施設課	課長補佐	図面番号 A-04
		図面名称 【技術棟】1階平面図（既設・改修後）	縮尺 A1 1/100 A3 1/200			

既設

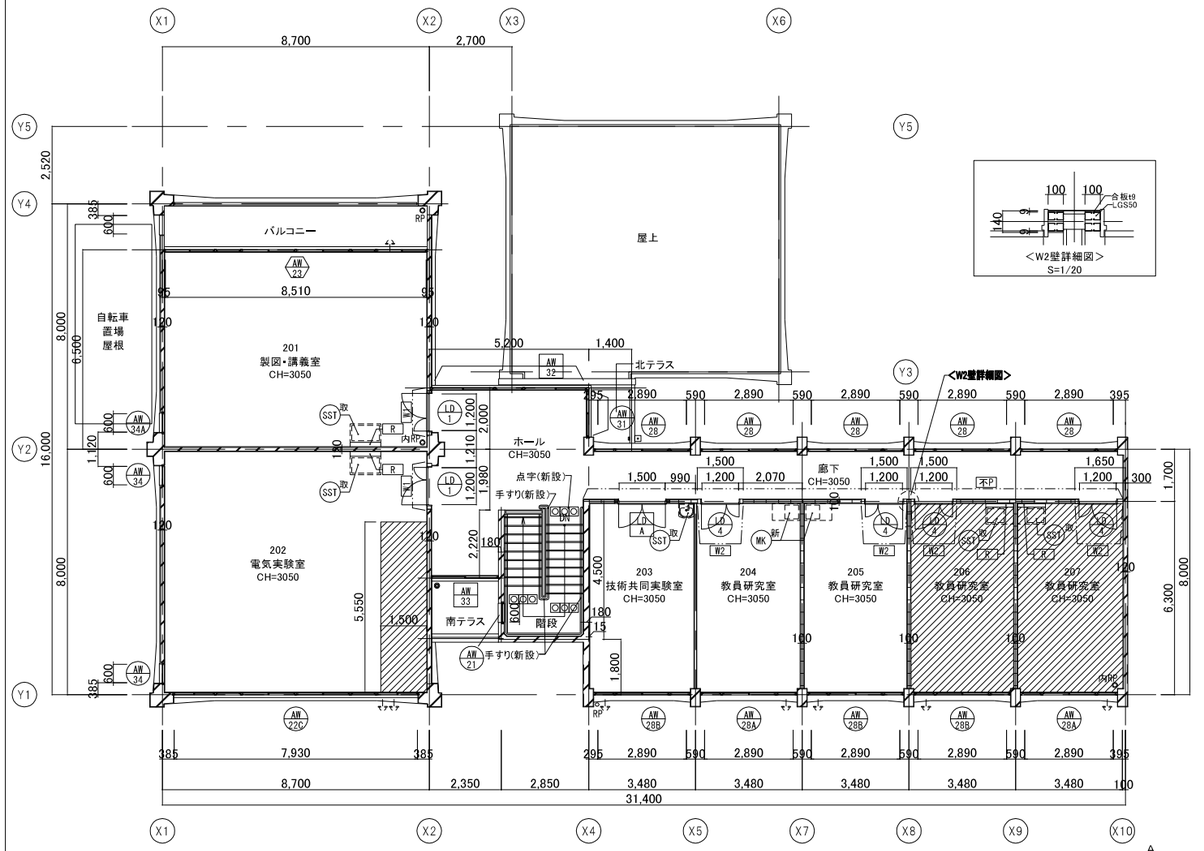


２階平面図　S=1/100

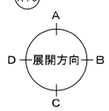
凡例				詳細番号凡例	
記号	内容	記号	内容	記号	内容
	工事対象外を示す	**	撤去建具　アルミ製建具（枠残置） 木・鋼・鋼製軽量建具（枠共）　を示す	CST 1	コンクリート流し台-1（撤去） 詳細図参照
	鉄筋コンクリート壁を示す	**	撤去建具（扉及びガラス部分のみ）を示す	CST 2	コンクリート流し台-2（撤去） 詳細図参照
	コンクリートブロック壁を示す	**	改修建具（撤去なし）を示す	CST 3	コンクリート流し台-3（撤去） ※カウンター部残置　詳細図参照
	軽量鉄骨間仕切壁を示す	RP	竪樋 掴み金物共	SST 取	ステンレス製流し台（取外・再取付） （別途設備工事）
R	鉄筋コンクリート壁撤去を示す モルタル塗（t20）含む	内RP	竪樋（防露巻）掴み金物共	SST 撤	ステンレス製流し台（撤去） （別途設備工事）
CB	コンクリートブロック壁撤去を示す モルタル塗（t20）含む	室名札	12箇所【撤去】（１階：5箇所、２階：7箇所）	ST 取	陶器製流し台（取外・再取付） （別途設備工事）
LW	軽量鉄骨間仕切壁（LGS-65型）撤去を示す せっこうボード t=9.5+12.5両面張り		誘導標識　1箇所【撤去】	ST 撤	陶器製流し台（撤去） （別途設備工事）
	床撤去（躯体共）を示す （躯体+仕上材+床下地材共撤去）		コンクリートカッター切を示す		
	床撤去（下地共）を示す （仕上材+床下地材撤去、躯体残置）		モルタルカッター切を示す		
	床撤去（仕上げ材のみ）を示す （仕上材撤去、躯体+床下地材残置）				

特記事項
- 各室仕上げ撤去内容は、仕上げ表による
- SUS製流し台、洗面器、ミニキッチンなどの衛生器具（配管含む）は別途設備工事とする
  （Con製流し台撤去は建築工事）
- 壁及び天井に設置されているものは別図参照のこと
- 図中の凡例及び記載事項に╳のある箇所は別途工事とする。

改修後



２階平面図　S=1/100



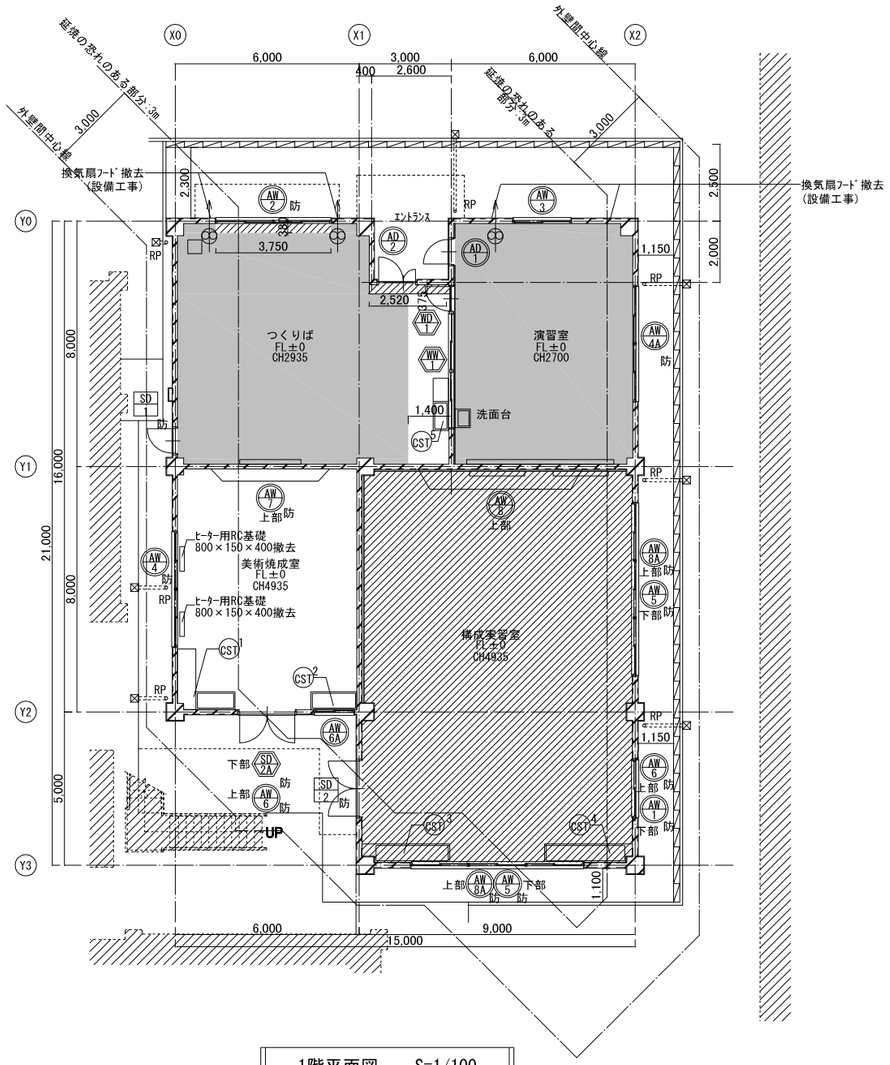
凡例				詳細番号凡例	
記号	内容	記号	内容	記号	内容
	工事対象外を示す	**	撤去建具　アルミ製建具（枠既存、カバー工法） 木・鋼・鋼製軽量建具（枠共）　を示す	SST 取	ステンレス製流し台（取外・再取付） （別途設備工事）
	鉄筋コンクリート壁を示す	**	新設建具（扉及びガラス部分のみ）を示す	SST 新	ステンレス製流し台（新設） （別途設備工事）
	コンクリートブロック壁を示す	**	改修建具（新設なし）を示す 建具周囲及びガラス止めシーリング打替え、鋼製建具は塗装	ST 取	陶器製流し台（取外・再取付） （別途設備工事）
	軽量鉄骨間仕切壁を示す	RP	竪樋 掴み金物共　SOP塗替	ST 新	陶器製流し台（新設） （別途設備工事）
		内RP	竪樋（防露巻）掴み金物共　SOP塗替	MK 新	ミニキッチン（新設） （別途設備工事）
	床新設（躯体共）を示す （躯体+仕上材+床下地材共新設）	室名札	12箇所【新設】（１階：5箇所、２階：7箇所）		
	床新設（下地共）を示す （躯体既設の上、仕上材+床下地材新設）		誘導標識　1箇所【新設】		
	床新設（仕上げ材のみ）を示す （躯体+床下地材既設の上、仕上材新設）				

特記事項
- 各室仕上げ新設内容は、仕上げ表による
- SUS製流し台、洗面器、ミニキッチンなどの衛生器具（配管含む）は別途設備工事とする
  （ライニングは建築工事）
- 壁及び天井に設置されているものは別図参照のこと
- 図中の凡例及び記載事項に╳のある箇所は別途工事とする。

（参考図）

業務名	奈良教育大学（高畑）技術棟等 改修工事設計業務（建築）	Hiroyuki Takahara & Associates Design Office Inc. 株式会社HTAデザイン事務所 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第20902号	工事名	奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事	令和 7年 7月	奈良国立大学機構 機構施設課	課長補佐	図面番号
			図面名称	【技術棟】２階平面図（既設・改修後）	縮尺 A1 1/100 A3 1/200			A-05

既設



1階平面図　S=1/100

凡例

記号	内容
	工事対象外を示す
	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ壁を示す
	軽量鉄骨間仕切壁を示す
	床撤去(仕上げ材のみ)を示す (仕上材撤去、躯体+床下地材残置)

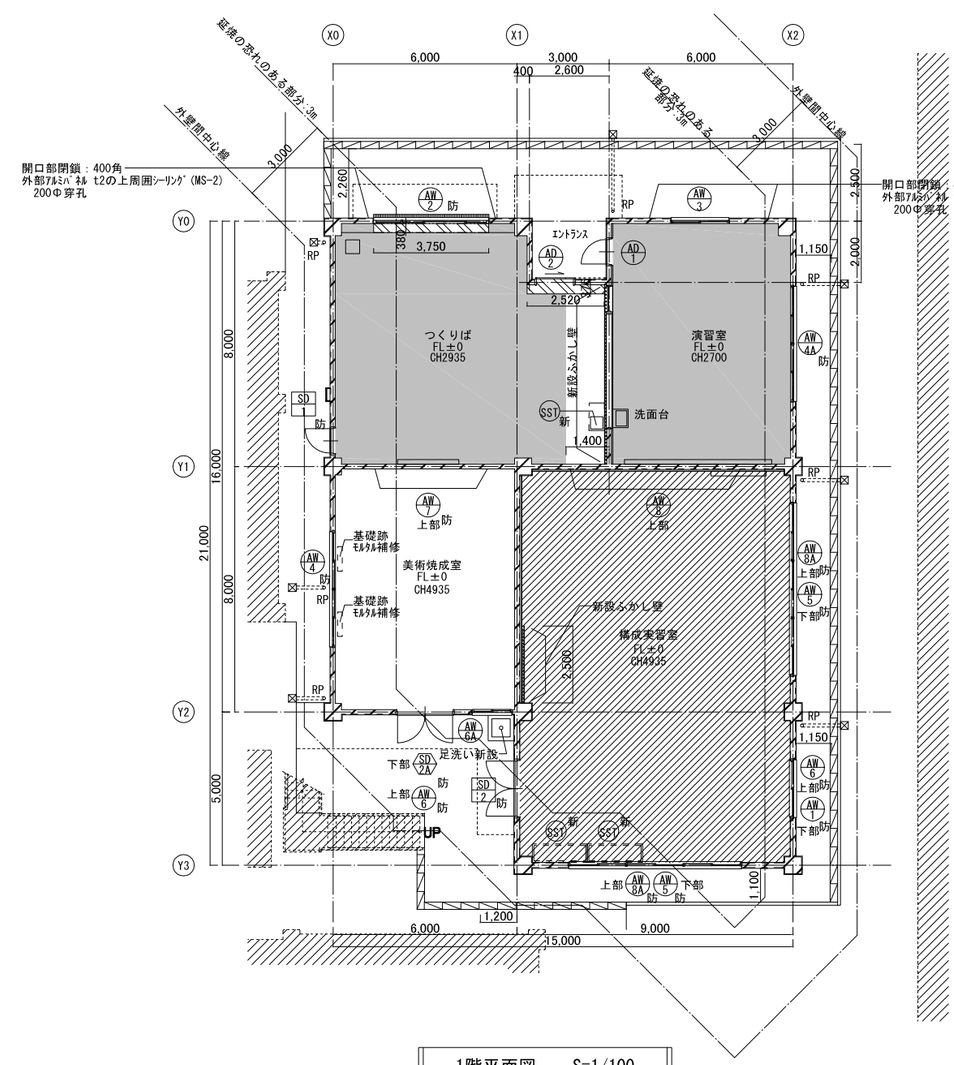
記号	内容
	撤去建具(枠残置)を示す
	撤去建具(扉及びｶﾞﾗｽ部分のみ)を示す
	改修建具(撤去なし)を示す
防	防火設備を示す
RP	竪樋 掴み金物共
室名札	4箇所【撤去】

詳細番号凡例

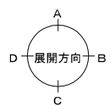
記号	内容
CST1	ｺﾝｸﾘｰﾄ流し台-1(撤去) W1280×D580×H350、W1900×D600×H150
CST2	ｺﾝｸﾘｰﾄ流し台-2(撤去) W1500×D580×H350
CST3	ｺﾝｸﾘｰﾄ流し台-3(撤去) W2900×D580×H350
CST4	ｺﾝｸﾘｰﾄ流し台-4(撤去) W2900×D580×H350
CST5	ｺﾝｸﾘｰﾄ流し台-5(撤去) W1700×D520×H150・350

特記事項
・各室仕上げ撤去内容は、仕上げ表による
・SUS製流し台、洗面器などの衛生器具(配管含む)は別途設備工事とする
(Con製流し台撤去は建築工事)
・壁及び天井に設置されているものは別図参照のこと
・図中の凡例及び記載事項に　　のある箇所は別途工事とする

改修後



1階平面図　S=1/100



凡例

記号	内容
	工事対象外を示す
	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ壁を示す
	軽量鉄骨間仕切壁を示す
	軽量鉄骨ふかし壁を示す
	床新設(仕上げ材のみ)を示す (躯体+床下地材既設の上、仕上材新設)

記号	内容
	新設建具(枠既存、ｶﾊﾞｰ工法)を示す
	新設建具(扉及びｶﾞﾗｽ部分のみ)を示す
	改修建具(新設なし)を示す 建具周囲及びｶﾞﾗｽ止めｼｰﾘﾝｸﾞ打替え、鋼製建具は塗装
防	防火設備を示す
RP	竪樋 掴み金物共 SOP塗替
室名札	4箇所【新設】

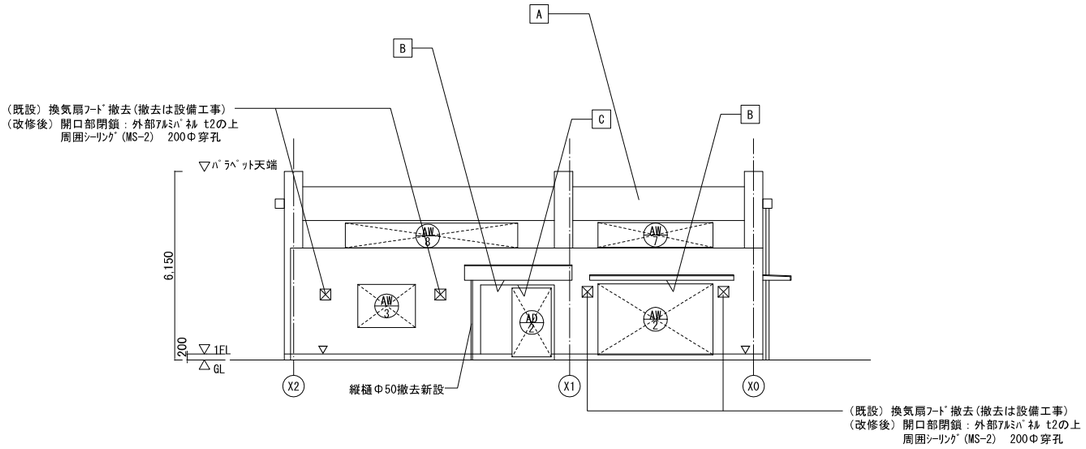
詳細番号凡例

記号	内容
SST新	ｽﾃﾝﾚｽ製流し台(新設) (別途設備工事)

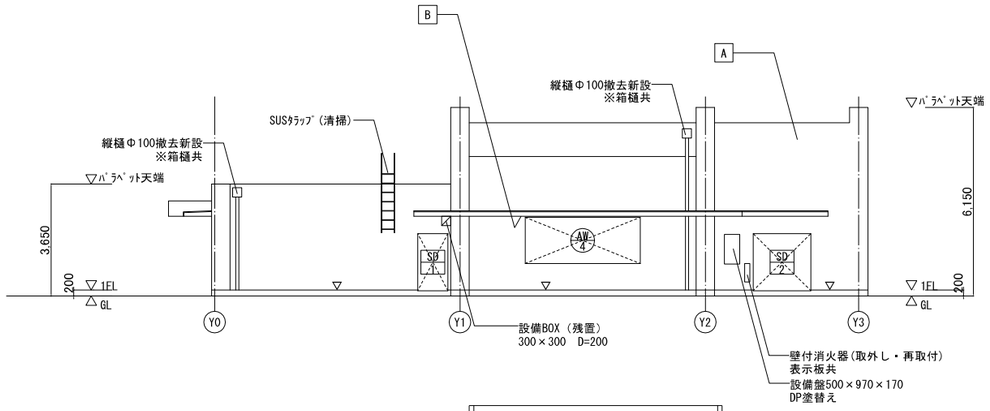
特記事項
・各室仕上げ新設内容は、仕上げ表による
・SUS製流し台、洗面器などの衛生器具(配管含む)は別途設備工事とする
(ﾗｲﾆﾝｸﾞは建築工事)
・壁及び天井に設置されているものは別図参照のこと
・図中の凡例及び記載事項に　　のある箇所は別途工事とする。

(参考図)

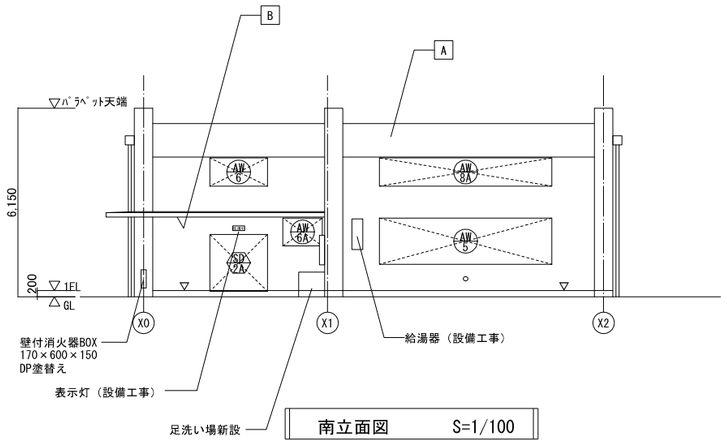
業務名	奈良教育大学（高畑）技術棟等 改修工事設計業務（建築）	Hiroyuki Takahara & Associates Design Office Inc. 株式会社HTAデザイン事務所 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第20902号	工事名	奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事	令和 7年 7月	奈良国立大学機構 機構施設課	課長補佐	図面番号
			図面名称	【美技棟】平面図（既設・改修後）	縮尺 A1 1/100 A1 1/200			A-24



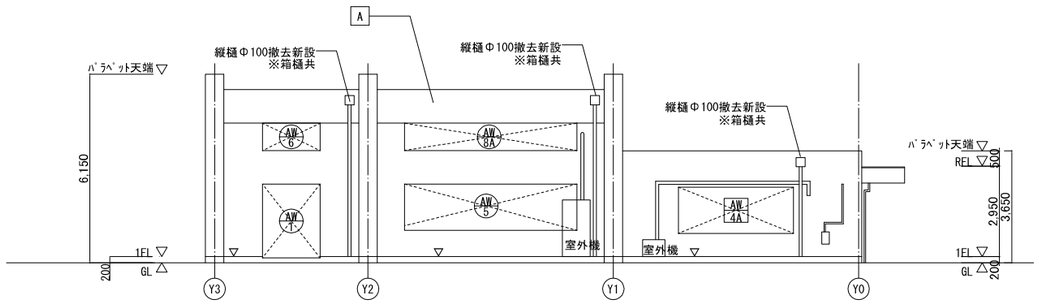
北立面図　S=1/100



西立面図　S=1/100



南立面図　S=1/100



東立面図　S=1/100

凡例		
外壁・柱	(既設) ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し仕上げ (残置) (改修後) 高圧洗浄+下地調整塗材+複層塗材E (新設)	A
庇裏	(既設) ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し仕上げ (残置) (改修後) 高圧洗浄+下地調整塗材+外装薄塗材E (新設)	B
軒裏	(既設) ケイ酸カルシウム板 EP塗装 (残置) (改修後) ケレン+外装薄塗材E (新設)	C
打継ぎ目地		▽
共通	※ 建具新設 (カバー工法) 改修内容は建具表参照	

外壁改修リスト(参考数量)	
ひび割部0.2mm未満ｼｰﾙ工法	20m
ひび割部0.2mm以上1.0mm未満 ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	10m
ﾓﾙﾀﾙ浮き部:ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ 部分ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法 16本/m2	10m
鉄筋の露出:ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾓﾙﾀﾙ	10箇所

(参考図)

業務名	工事名	令和 7年 7月	奈良国立大学機構 機構施設課	課長補佐	図面番号
奈良教育大学（高畑）技術棟等 改修工事設計業務（建築）	奈良教育大学（高畑）技術棟等改修工事				A-26
Hiroyuki Takahara & Associates Design Office Inc. 株式会社HTAデザイン事務所 一級建築士事務所 大阪府知事登録 第20902号	図面名称 【美技棟】立面図（既設・改修後）	縮尺 A1 1/100 A3 1/200			